

第 2 章

山形大学教員研修会 「第9回 教養教育FD合宿セミナー」

平成21年度教養教育改善充実特別事業
第9回山形大学教養教育FD合宿セミナー
「相互研鑽による教養教育の飛躍をめざして」



日 時： 平成21年8月3日(月)～5日(水)
場 所： 山形大学蔵王山寮(電話023-694-9669)
主 催： 山形大学教育方法等改善専門部会
山形大学高等教育研究企画センター

第9回 教養教育FD合宿セミナーパンフレット第1チームの抜粋

FD合宿セミナーに当たって

山形大学は6学部を擁する総合大学です。教養教育は、総合大学の特性を有効に活用するために全学出動体制を採っており、それは山形大学の大きな個性にもなっています。学部の垣根を越え、山形大学全体の教育を考える上で、教養教育は全ての教員の共通基盤となるものです。また、生き残りをかけた大学改革に際し、授業の充実は最も重要な課題の一つでしょう。

今回のセミナーの第一の目的は、「個々の教員が、大学を支えることの意義と位置付け、教育の基本的構成要素、各授業科目の存在意義、授業設計、成績評価法などについて、あたためて主体的に検討し、再構築していただくこと」です。この目的を達成するために、まず、参加者の皆様に御担当いただく新しい授業科目について考えていただきます。そして、そのシラバスをグループで協力して作成していただきます。こうした一連の作業が有効な方法であることは、既に広く知られています。

セミナーは、大学への参画意識を高めるための2つのプログラムと、シラバスを作成するための2つのプログラムから構成されています。各プログラムは、グループ作業を中心に組まれており、参加者は学生が運営する学生主体型授業を体験することになります。

また、「教養教育を素材として、大学間・学部間の人的交流の拡大・充実を図ること」が第二の目的です。他部局の参加者と活発な議論を交わしながらプログラムを遂行し、セミナーが終了した後は、参加者が大学の教養教育を始めとした教育全般の発展に、より一層積極的に貢献されることを期待しています。

このセミナーは、「構成員こそが大学の財産」という精神でのぞんでいます。

更に、このセミナーは東日本地域の「FDネットワーク“つばさ”」を始めとして、全国の大学に開かれています。本セミナーが、相互研鑽の精神に則り、参加された大学・短大・高専の発展に寄与されんことを願っております。



第9回 山形大学教養教育FD合宿セミナー日程表

期 間 第1チーム：8月3日（月）～4日（火）

○第1日目

時 刻	項 目	担 当
12:50	山形大学集合・受付（正門付近）	事 務
13:00	送迎バス 大学出発	
14:00	会場到着 セミナー開会 開会のあいさつ	司会： DR-A
14:30	アイスブレーキング	DR-A
14:50	オリエンテーション	DR-A
15:00～16:30	プログラムⅠ「大学へのニーズと課題」	DR-A
16:30～16:40	休憩（10分間）	
16:40～18:10	プログラムⅡ「理想の大学をつくる」	DR-A
18:10～19:00	夕食	
19:00～21:00	入浴・休憩	
21:00～22:30	懇親会	DR-B
22:30	中締め	
23:00	就寝	

○第2日目

時 刻	項 目	担 当
7:30～	朝食・部屋退出	
8:30～10:00	プログラムⅢ「科目設計1：授業名と目標、内容の作成」	DR-B
10:00～10:10	休憩（10分間）	
10:10～11:40	プログラムⅣ「科目設計2：シラバスの完成」	DR-B
11:40～	修了式	DR-B
12:20～	昼食	
14:30※	送迎バス 蔵王山寮出発	
16:00頃※	大学到着 解散	

※第2チームは13:30 送迎バス 蔵王山寮出発、15:00頃 大学到着 解散となります。

【留意事項】

- セミナー期間中の途中からの参加及び離脱は禁止とします。
- セミナー期間中の個人の呼称は、「〇〇さん」とします。
- 食事はセルフサービスとなります。食事時間になりましたら、共同で配膳作業等を行ってください。
- 起床と同時に、寝具を使用前と同様に整理・整頓し、使用した宿泊室・廊下等を清掃してください。
- 退出の際は、使用したシーツ・枕カバーをたたんで、指定する場所に返却してください。

第9回 山形大学教養教育FD合宿セミナー 班名簿

第1チーム：8月3日（月）～4日（火）

DR-A	小田隆治
DR-B	杉原真晃

DR-C	酒井俊典
DR-D	安田均

A班:	氏名	性別	B班:	氏名	性別	C班:	氏名	性別
山大医	有本貴範	男	山大医	石井健一	男	山大人文	戸室健作	男
山大工	吉田健吾	男	山大工	阿部宏之	男	山大理	鵜浦啓	男
立教	檜枝光太郎	男	明星	竹中久	男	大女	本屋禎子	女
北情	梅津真	男	岡山	橋本勝	男	明星	関口武司	男
北翔	小杉直美	女	東情	柴理子	女	名桜	山田均	男
了徳	磯崎弘司	男	松本	眞次宏典	男	八工	佐藤手織	男
長技	中山忠親	男	名女	下木戸隆司	男	仙台	阿部篤志	男

D班:	氏名	性別	E班:	氏名	性別	F班:	氏名	性別
山大人文	阿部未央	女	山大理	内山敦	男	山大地教	齋藤英敏	男
山大地教	真木吉雄	男	山大農	藤井弘志	男	山大医	石田陽子	女
明星	山崎洋次	男	明星	田中晴雄	男	明星	石丸純一	男
了徳	野田哲由	男	昭音	田邊克彦	男	長技	若林敦	男
八戸	篠崎良勝	男	人環	岡良和	男	日大	小堂俊考	男
			日大	森長秀	男	仙台	石丸出穂	男

山大人文:山形大学人文学部 山大地教:山形大学地域教育文化学部 山大理:山形大学理学部
 山大医:山形大学医学部 山大工:山形大学工学部 山大農:山形大学農学部
 明星:いわき明星大学 桜美:桜美林大学 北情:北海道情報大学 大女:大阪女子短期大学
 神工:神奈川工科大学 福工:福井工業大学 仙白:仙台白百合女子大学 筑技:筑波技術大学
 西福:関西福祉科学大学 九共:九州共立大学 桜聖:桜の聖母短期大学 昭音:昭和音楽大学
 東情:東京情報大学 東理:東京理科大学 同志:同志社大学 長技:長岡技術科学大学
 日大:日本大学 仙台:仙台大学 鶴専:鶴岡工業高等専門学校 松本:松本大学 名桜:名桜大学
 八工:八戸工業大学 八戸:八戸大学 羽陽:羽陽学園短期大学 法政:法政大学 北翔:北翔大学
 山保:山形県立保健医療大学 岡山:岡山大学 弘前:弘前大学 人環:人間環境大学 芸工:東北芸術工科大学

オリエンテーション

(担当：DR-A)

1 FDの必要性

- ① 大学の社会的教育責務の明確化
- ② 大学教育を教員中心から学生中心へ移行することの教員の意識改革
- ③ 大学生の質の変化への対応

2 合宿セミナーの目的

- ① 教員個人が大学を支えること的位置付け
- ② 教育の基本的構成要素，大学における各科目の存在意義，授業設計，成績評価法などをあらためて整理する。
- ③ 教員相互の交流

3 セミナー形態

体験型のセミナーで，セミナー自体がグループ学習形式であり，参加者は，学生が運営する学生主体型授業を体験することになる。

- ① 参加者によるセミナー全体の運営
- ② セミナーのグループ構成：6班
班の構成員の年齢は幅広くする。
- ③ 各プログラムに，毎回，総合司会者と記録係を置く。（各班の持ち回り）
- ④ 各班に，毎回，司会者と記録係，発表者を置く。（持ち回り）
- ⑤ 全体と各班の記録係は，各プログラム終了後に記録を提出（この記録は，コピーした後，速やかに全班に配付）
- ⑥ 参加者による相互評価：各回のプログラムが終了した時点で，各参加者が各班の発表と質疑応答に対し，5段階で評価を与える。（この評価は，毎回回収し，整理した後，速やかに掲示する。）
- ⑦ 合宿セミナーに関するポストアンケートを実施

4 各プログラムの基本的形態

- | | |
|----------------------|-----|
| ○各プログラムの講師による作業内容の説明 | 10分 |
| ○グループ作業 | 40分 |
| ○発表 各グループ | 24分 |
| (各グループの発表時間4分×6班) | |
| ○全体討論 | 16分 |

全体で 90分

平成21年度 第9回山形大学教養教育FD合宿セミナー
「相互研鑽による教養教育の飛躍をめざして」

セミナーの形態

体験型のセミナーで、セミナー自体がグループ学習形式であり、参加者は、学生が運営する学生主体型授業を体験することになる。

- ① 参加者によるセミナー全体の運営
- ② 班構成：6班 班の構成員の年齢は幅広くする。班は、参加者を見て、当日までに専門部会で決定しておく。
- ③ 各セミナーに、毎回、司会者と記録係を置く。（各班の持ち回り）
- ④ 各班に、毎回、司会者、記録係及び発表者を置く。（持ち回り）
- ⑤ 各プログラムの基本的構成
 - 各プログラムを担当する講師による作業内容の説明 10分
 - 班ごとの作業 40分
 - 発表 各班の発表時間4分×6班 24分
 - 全体討論 16分
- ⑥ 全体と各班の記録係は、A4版1枚程度に記録をまとめ、各プログラム終了後に提出する。（この記録は、コピーした後、速やかに参加者全員に配布）
- ⑦ 参加者による相互評価：各回のプログラムが終了した時点で、各参加者が各班の発表（各4分で計24分）と質疑応答に対して評価する。5段階評価とし個人は18点の持ち点を有する。（この評価は、毎回回収し、整理した後、速やかに全班に配布）

プログラムⅠ「大学へのニーズと課題」

各班同じテーマ 次のプログラムも念頭に置く。

- 大学の分析
 - ・大学の置かれている状況分析
 - ・社会的ニーズ
 - ・長所（望まれること）
 - ・短所（望まれないこと）
 - ・現実的な制約・問題点、改革の必要性など

プログラムⅡ「理想の大学をつくる」

プログラムⅠの問題点等を踏まえた上で、理想の大学をためには、これからどのようなことを考え、実行していかなければならないか、具体的に提案する。

大学の理念・目標を実現するための具体的行動目標、大学の「個性」と「売り」をどうするか。すべての班が同じテーマであるが、個性あふれる現実的企画を期待する。

大学の「売り」を作る企画が求められる。

- ①理念・目標
 - ・自覚的に個性的な校風を作り出していく
 - ・個性的な大学像（理念・目標、キャッチフレーズ）
- ②方略（考えられるいくつかの方法、実現の可能性）
- ③実行計画（主な活動、資源、時期、担当、責任、具体的企画書等）
 - ・その宣伝・普及の方法（4年計画案）
- ④評価（測定方法、学生、教員、ステークホルダー）
 - ・目標が達成できたかどうかを検証する。

プログラムⅢ 「科目設計1：授業名と目標、内容の作成」

各授業に分かれ、以下の指定された授業において適当な科目を作り、その科目名（名は体を表す科目名）とその学習目標を明らかにする。履修の時期も明確にする。

- A, B班：大学の個性を発揮する授業
- C班：地域性と関連する授業：大学と地域の連携
- D班：国際性を培う授業
- E班：21世紀の諸課題に対応する授業
- F班：職業意識と労働意欲を培う授業

学習方略

授業内容（順次性を踏まえて設計）

授業の方法（講義，ビデオ，見学，調査，討論，担当教員等）

つづいて、授業内容を設計する。原則として、週に1回90分授業を15回実施するとして、15回分の授業内容（方略）を設計する。授業の順序と各回の内容、授業法、媒体、資源などを現実的に示す。方略を設計するに当たり、目標の修正が必要になるかもしれない。この場合は、目標を手直しする。

プログラムⅣ 「科目設計2：シラバスの完成」

「科目設計1」で設計した授業内容を手直しし、「評価」の項を加え、シラバスを完成させる。

成績評価

評価項目

評価方法

評価比重（%）

各グループの課題**○プログラムⅠ**

グループ	課題
共通	大学へのニーズと課題

○プログラムⅡ

グループ	課題
共通	理想の大学をつくる

○プログラムⅢ～Ⅳ

グループ	課題
A, B班	大学の個性を発揮する授業
C, D班	地域性と関連する授業：大学と地域の連携
E班	国際性を培う授業
F班	21世紀の諸課題に対応する授業
G班	職業意識と労働意欲を培う授業

プログラムⅠ「大学へのニーズと課題」

(担当：DR-A)

○各班同じテーマ プログラムⅡも念頭に置く。
現実的、具体的に解析する。

- 1 大学には何が求められているか？
 - ・社会は大学に何を求めているか？
 - ・学生のニーズ
- 2 大学の置かれている状況分析
 - ・そこには、どのような課題（問題）があるか？
 - ・長所（望まれていること）
 - ・短所（望まれていないこと）
 - ・その生じさせている理由・原因は何か？
- 3 現実的な制約・問題点、改革の必要性など

プログラムⅡ「理想の大学をつくる」

(担当：DR-A)

プログラムⅠの問題点などを踏まえた上で、理想の大学をつくるためには、これからどのようなことを考え、実行していかなければならないか、具体的に提案する。大学の理念・目標を実現するための具体的な行動目標、大学の「個性」と「売り」をどのようにするか。すべての班が同じテーマであるが、個性あふれる現実的企画を期待する。

大学の「売り」を作る企画が求められている。

- 1 大学の理念・目標
 - ・自覚的に個性的な校風を作り出していく
 - ・個性的な大学像（理念・目標、キャッチフレーズ）
- 2 方略（考えられるいくつかの方法、実現の可能性）
- 3 実行計画（主な活動、資源、時期、担当、責任、具体的企画書など）
 - ・その宣伝・普及の方法（4年計画案）
 - ・組織論（学部、学生の入口と出口（入試制度と就職）、学長と副学長制、委員会など）
- 4 評価（測定方法、学生、教員、ステークホルダー）
 - ・目標が達成できたかどうかを検証する

プログラムⅢ「科目設計1：授業名と目標，内容の作成」

(担当：DR-B)

ここでの課題

シラバス作成作業の第1段階として，各グループごとの課題に対応した授業名と学習目標の設定を行う。

プログラムⅢ，Ⅳの各グループの課題

- A，B班：大学の個性を発揮する授業
- C班：地域性と関連する授業：大学と地域の連携
- D班：国際性を培う授業
- E班：21世紀の諸課題に対応する授業
- F班：職業意識と労働意欲を培う授業

学習方法と道筋（戦略，学習方略）を明示する。具体的には，学習者が到達目標に達するために必要な学習方法の，種類と順序を示す。

作業1 授業名の決定：○○○○○○○○○○○○（仮称）←内容確定後，最後に決定？

作業2 学習目標の設定

1 踏まえておくべきことから：

- (1) 教員中心ではなく，学生による学習を中心に考える（教員の果たすべき役割の再検討）
- (2) 大学に対する社会的ニーズ
- (3) 大学の全体的な教育目標

註：(1)について

大学の役割

- 講義の提供 → 学習方法と教育方法のデザイナー
- 学生から独立 → 教員と学生を一つのチームと考える
- 学力差を明確にする → すべての学生の能力と才能を引き出す

成功へ向けて

- 伝授する資源の重視 → 学習と学生の成功の産物を重視
- 資源の量と質の重視 → 産物の量と質を重視
- 入学生の質の重視 → 卒業生の質を重視
- カリキュラムの発展と拡大 → 学習技法の発展と拡大
- 大学の質・内容の質 → 学生の学習の質

使命

- 知識の提供・伝授 → 学習を生み出し，知識の発見と形成へ
- コース・プログラムの提供 → 強力な学習環境の提供
- 教育の質の改善 → 学習の質の改善
- 多様な学生への対応 → 多様な学生を卒業させる

教育

- 教員中心・知識伝授 → 学生中心・知識発見
- 教育の質 → 学習の質，学習効果・効率
- 指導者としての教員 → 学生の才能・能力を引き出す助言者
- 個人的・受動的学習 → 共同的・行動的・能動的学習

2 学習目標の記述

各科目の学習目標を表現することの必要性とその表現方法を学ぶ。学習の効果は、教育の受け手（学習の主体）である学生の変容で評価されるべきである。そのために、①授業の目標と②到達目標を定める。

注：授業の目標を作成する際の注意点

原則

- (1) 学習者を主語として書く
- (2) 学習の結果、いかなることができるようになるかを明示する

記述内容

- (1) 知識・技能の学習がなぜ重要か。それによって学生の要求がどのように満たされるかを明示する。
- (2) 複雑・総括的な概念を持つ動詞を用いる。
知る、認識する、理解する、感ずる、判断する、評価する、考察する、位置付ける、実施する、適用する、示す、創造する、身に付ける、等々
※単純な行動を示す動詞は用いない（述べる、列挙する、選ぶ、記載する等々）
- (3) 必要な目標分類（認知・態度・技能）を総括的に含める。

注：到達目標を作成する際の注意点

授業の目標を達成するためにどのようなことができるとよいか、具体的に明示する。

- (1) 学習者を主語として書く
- (2) 動詞を含むこと
- (3) 「理解する」のような概念的言葉ではなく、観察可能な行動を具体的に表す
- (4) 授業の目標と関連していること
- (5) 到達レベルを書く
- (6) 認知、態度、技能を分けて書く
 - 知識（認知領域）：知識を得て理解し、一定の能力を獲得する
述べる、説明する、分類する、比較する、解釈する、推論する、一般化する、適用する、結論する、批判する、評価する、等々の動詞
 - 技能（精神運動領域）：知識・能力を活かして意識的・具体的に行動する
感ずる、始める、模倣する、工夫する、行う、創造する、触れる、調べる、準備する、測定する、等々の動詞
 - 態度・習慣（情意領域）：獲得した知識・能力を、情報として相互に提供・交換し合う
行う、コミュニケーションする、協調する、示す、表現する、系統立てる、参加する、応える、等々の動詞

作業3

原則として、週に1回90分の授業を15回実施するものとして、授業の内容を考えてみる。その際、授業の順序と各回の内容、学習法、利用する媒体、資源などについて明示する。内容によっては、授業の目標、到達目標、さらには科目名についても変更が必要になるかもしれない。

注：学習方法の種類

- (1) 受動的学習法：講義など
- (2) 能動的学習法：①グループ討議（演習、セミナー、ディベートなど）
②実験・実習
③自習（読書、個人研究、コンピュータ活用学習など）

註：学習のための資源

(1) 人的な面で：

(2) 物的な面で：①場所

②媒体（スライド，OHP，標本，VTRなど）

(3) 予算

プログラムⅣ「科目設計2：シラバスの完成」

(担当：DR-B)

ここでの課題

プログラムⅢで作成した授業について、シラバスを完成する。

○成績評価

その位置付け

- (1) 教育評価は、学生、教員、カリキュラム（目標、学習方法の立案（方略）、評価）の三者が対象
- (2) 成績評価は、その中の一つ。

留意点

- (1) どの行動領域を評価するか
 - ① 知識（認知領域）
 - ② 技能（精神運動領域）
 - ③ 態度・習慣（情意領域）
- (2) いつ評価するか
 - ① 学習前（プレテスト）
 - ② 学習中（中間テスト）
 - ③ 学習終了後（ポストテスト）
 - ④ フォローアップ・テスト
- (3) 評価の目的
 - ① 形成的評価：学生が理解している点、理解が不足している点を発見し、学習法、教授法へのフィードバックが目的。最終評価の参考にしない。
 - ② 総合評価：到達目標に対する学生の到達度を計測する。
- (4) いかに関評価するか、複数の評価項目のウェイト
 - ① 論述試験
 - ② 口頭試験
 - ③ 客観試験
 - ④ 実地試験
 - ⑤ 観察試験
 - ⑥ 論文（レポート）

評価の持つべき性格

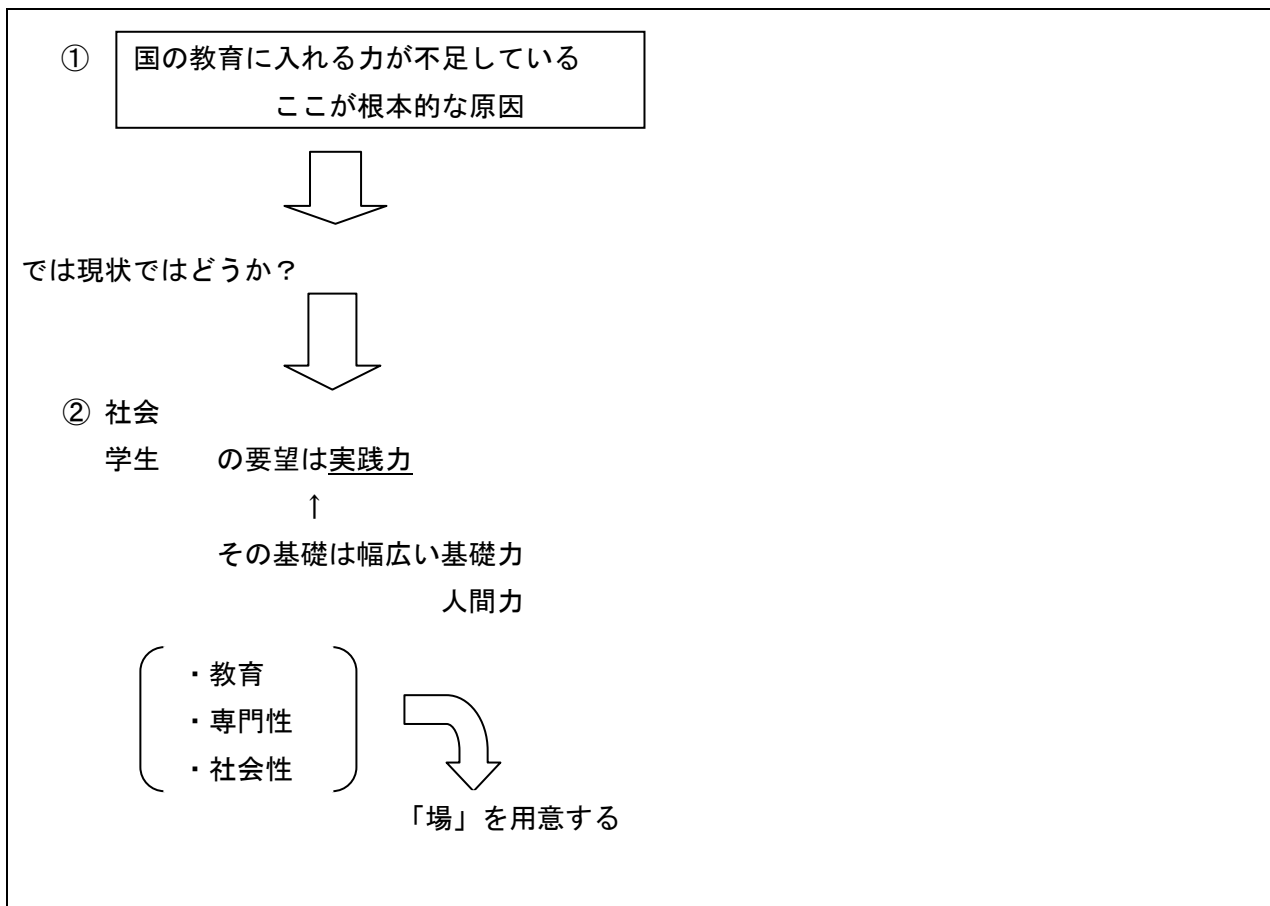
- (1) 妥当性：計測しようと意図する項目を計測できる方法か？
- (2) 信頼性：計測結果の再現性は良いか？
- (3) 客観性：計測者（教員）が替わっても、同じ結果が得られるか？
- (4) 効率性：経済的にも時間的にも実用的か？
- (5) 特異性：なぜ、そういう解答がなされたか分かるか？

各プログラムの記録【第1チーム】

プログラムI 「大学へのニーズと課題」

◆ グループ作業記録

Tree Ice班(A班)	司会者：吉田 記録者：檜枝 発表者：梅津				
<ul style="list-style-type: none"> ● 単科大学（情報）なので実学 学生の要望 大学もこたえようとする。 ● 医学部も最近臨床の力のある人が教授になりつつある。 <ul style="list-style-type: none"> ・教育は基礎の長い学びの後に臨床なので、学生は早く臨床へ ・地元の人：山形県で最良の医療を希望 ● 最良の医療は、常に進歩→一生学び続ける必要がある。 <p style="text-align: center;">実学一辺倒であってはこの力がつくのか？</p> ● 工学でも、もっと基礎的な力をつくるのが大切。 ● 企業でも、基礎力を求め、実用的なものを企業で教育することもある。 ● 教授が9月から学長になる。教授連の意向を聞いている。 <p style="text-align: center;">大学は「世界の最先端の研究」を目標。 しかし、学生はついてこない→大学のニーズは？</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 40px;"> <div style="margin-right: 20px;"> <p>大きな視点からニーズを考える。</p> <p>課題：大学の構成員の意識を 一つの方向性にもっていく。</p> </div> <div style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の ・文科省の ・社会の ・教員の </div> </div> <p style="margin-left: 40px;">山形大学は文科省のトップだった人が学長。どう変わるのか？</p> ● 企業から、大学に移ってわかったこと⇒指揮命令系統がない <p style="text-align: center;">→何らかのシステムが必要</p> ● 効率化 <table style="display: inline-table; border: none; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="border: none;"> <ul style="list-style-type: none"> ・研修 ・教育 </td> <td style="border: none; padding: 0 10px;">} に適用できるのか？</td> </tr> </table> ● 学生の獲得 ● 日米の比較 日本は基礎学習を重視していない。 <p style="text-align: center;">トップクラスの大学は研究重視でできる。 しかし、弱小私大は研究はにおいて、教育。</p> ● 弱小部投（4組）私立大 <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 40px;"> <table style="border: none; margin-right: 20px;"> <tr> <td style="border: none;"> <ul style="list-style-type: none"> ・教養 ・専門性 ・社会性 </td> <td style="border: none; padding: 0 10px;">} ⇔</td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; margin-right: 10px;">学生</div> <p>いかに楽しんで卒業するか</p> <p style="margin-left: 40px;">学力低下</p> </div> 		<ul style="list-style-type: none"> ・研修 ・教育 	} に適用できるのか？	<ul style="list-style-type: none"> ・教養 ・専門性 ・社会性 	} ⇔
<ul style="list-style-type: none"> ・研修 ・教育 	} に適用できるのか？				
<ul style="list-style-type: none"> ・教養 ・専門性 ・社会性 	} ⇔				



楽学班(B班)

司会者：橋本

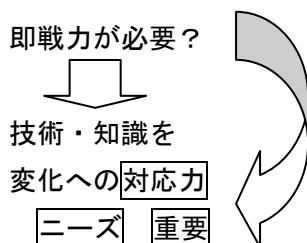
記録者：阿部

発表者：阿部

1. 変化への対応力

学生が求めているか？

- ・ 就職→出た大学（企業側から）が重要。大学在学中のことは比重が軽い
- ・ 学問より人間としての基礎力（人間力）養成重要。社会人基礎力、リーダーシップの養成
- ・ 地元と密着。社会に通用する人材の養成。
専門学校との違いは？
- ・ 未知のことに対応できる能力の育成
（社会に出た後）
- ・ 学生間の差。優秀な学生を優先して養成
- ・ 学生はどう思っているのか（ニーズ）
- ・ 学生のモデルとなる教員が必要？



2. 大学側が対応できているのか

(例) 学生の小グループ化

教員のコンセンサス

- ・ 学生は学生の中にモデルをつくる。モデルがあるかどうか重要？
- ・ ゆとり教育の弊害（学生の生徒化）
- ・ 即戦力→社会の対応に適應できる能力が弱い
- ・ 目的がわからない→モデルの提供が必要

↓

先輩？ 上下関係（コミュニケーション）

- ・ 学生の差が距離、やる気のある学生を見つけサポートする→モデル
- ・ 学生のニーズ→学生参加型授業→学生の自発力を伸ばす

- ・ ニーズの拾い上げ ← 学生のやる気なし
学生参加型 ← どうか？

- ・ 学生の感性のぶつかり合い→個性、刺激
- ・ 教員間の意識の差→重要課題

シー蔵王班(C班)

司会者：関口

記録者：本屋

発表者：戸室

1. 大学に何が求められているか

- ・現状分析 大学卒業資格が欲しい（内実が伴わない）
- ・社会のニーズが変化し、リーダーを育てるよりも一般人の力をつける。
- ・社会のニーズの多様化し、社会人として育てなければならない。

大学側の作るポリシーがどのように学生に受け取られているかをどうはかるか。

2. 大学の置かれている状況

勉学意欲が低いものをどうするか

学生の主体性が低くなっている

演習の中で学生主体の活動を行っている

大学卒の資格は就職に前ほど有効ではなくなっている。転職は厳しい

3. 現実的問題

学力差、多様化にどう対応するか

教養系の科目の改革でそれを行う。



愛班(D班)

司会者：阿部

記録者：真木

発表者：山崎

1. 大学には何が求められているか？

◎それぞれの大学において実情が異なる。一般的論として

- ・ 資格を求める学生が少ないが、専門性に加え社会人としての人間性を養うこと

2. 大学の置かれている状況分析

◎課題 ・ 学士力の低下（知識の少なさ、学力のなさ）

・ 学生のニーズと大学のニーズのギャップ

・ 協調性等カリキュラムに取り組むことの困難性

◎長所 ・ 教養教育の部分で各大学が独自に取り組むことができる

・ 中教審の言い分はその通りだが、独自性がなくなる

◎短所

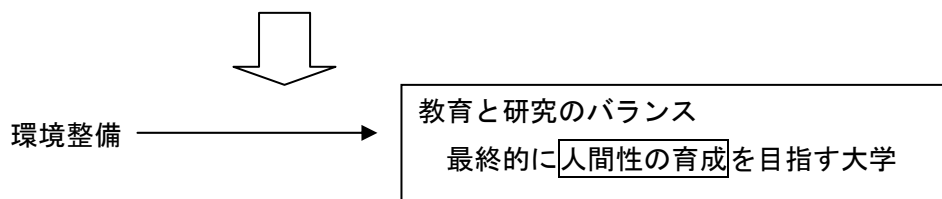
・ サービス経営をやらざるを得ないが故に教育のレベル向上が図れない

・ 本業以外の業務が多く、研究活動や教育活動が困難である

3. 現実的な制約・問題点・改革の必要性等

◎問題点

- ・ 教員が5割を超える進学率という現実の中の学生の実態をとらえられない。（ユニバーサル段階）
- ・ 評価システムが画一的（大学について、教育についても）
- ・ 予算が不足



チェリー班(E班)

司会者：内山

記録者：藤井

発表者：藤井

1. 大学に求められているもの
社会→キャリア、即戦力、人間力、ストレス耐性
学生→資格、就職（形）←親
2. 大学の置かれている状況分析（課題）
 - ・学力（基礎）低下、人間力の向上、ストレス耐性の低下

対策

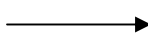
- ・モチベーションをあげる
- ・専門性
- ・補講
- ・チャンネル
- ・友達

原因

- ・学生変化
- ・社会変化

3. 現実的な問題、改革の必要性

- ・システム（組織）
- ・大学人の意識
- ・学生の意識の変化



ストーンズ班(F班)

司会者：石丸

記録者：石田

発表者：小堂

1. 大学には何が求められているか？

(「社会」とは)

1) 生きる力 人間性教育 → 問題発見能力 → 問題解決能力

↓

人間力 普遍的なもの + α (打たれ強さ、問題解決能力)

〈学生のニーズ〉

自分を認めてほしい (成績)

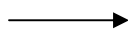
2. 大学が置かれている状況分析

〈課題〉

- ・ 人間性や問題解決能力はどのような方法で育まれるのか
- ・ 教員と学生の触れあいの機会が減っている (個別対応)
- ・ 実益と学問の間で苦しんでいる

資格
就職 など求められるもの

3. 現実的な問題、改革の必要性



マンパワーの問題

入学者 (受験者) の減少

経済的問題

実益的データを求められる (合格率、就職率)

2. と重複する部分



◇グループ作業記録 プログラムⅠ 全体討議記録◇

何が求められているか

- ↓
- ← 現実的な点
具体的内容
問題など
- Ⓐ 人間力と実践力 →

 - ・教養、専門性、社会性を見に付けて社会に出る
 - ・専門性を高めると、実践力↓ただし基礎があれば将来伸びる
 - Ⓑ 多様性のある人材 →

 - ・自主性のある学生
 - ・小グループ間の交流
 - ・指導教官の交流
 - Ⓒ 常識のある人間
(昔はリーダーが求められた)

 - ・専門性の高い教育⇔資格が欲しい学生
 - ・大卒のメリットが低下し、実学を求める学生が増えた。身近な学力を学ばせる必要もある。
 - Ⓓ 専門性と社会性

 - ・大学⇔学生のギャップ
 - ・サービス業をふやさなければならない
 - ・教官の本業以外の業務が多い
 - ・評価システム、予算に問題もある
 - Ⓔ キャリア、即戦力、人間力、
ストレス耐性

 - ・学力↓、ストレスに対する力↓
 - ・友人としての視点も必要
 - ・学生も変化している
 - ・教官の意識改革が必要
 - Ⓕ 生きる力 →

 - ・自分で問題を見つけ、乗り越える力
 - ・精神力がある（やりとげる）
 - ・教官—学生のふれあいが必要
 - ・実益と教育内容にギャップ
 - ・“生きる力”を評価する方法も必要

学生のニーズについて

できないことより、できることを認めてやる。

→大学側に引き込んで、ニーズを拾い上げる

学生のニーズを拾い上げるには

ニーズを拾い上げる多様な方法

匿名、記名、授業を持たない教官が引き出す。

事務と教官の連携、国際化、少子化などの問題も

社会の変化に大学がついていく

過去は実践力は、今ほど重視されなかった

専門学校と大学は違う

基礎力（教養）が大切である

自分の力で発展していく力

キャリアの発達

評価システムの改善

教官も多様な人間が存在

ノーベル賞を受賞した方々のように“基礎学問”を学べるのが大学である

（大学の品格）



プログラムII 「理想の大学をつくる」

◆ グループ作業記録

<h3>Tree Ice班(A班)</h3>	司会者：小杉 記録者：中山 発表者：梅津
<p>仮想大学を設立（ただし資金などは考えないとする）</p> <p>着 服 点：1) ストレス耐性をつける 2) 問題点を発見する、分析する、対応する力をつける。</p> <p>立 地：山形県・蔵王山中</p> <p>学 部：文理 { ・エコエンジニアリング学部（理） ・エコソーシャル学部（文）</p> <p>理 念：「自然の厳しさ」「社会の厳しさ」を知り、使える人材に</p> <p>モットー：教練 修練 鍛錬 →十分な心理的ケア</p> <p>方 針：どんな学生でも受け入れます。ただし卒業時の品質は保証します。</p> <p>入 試：面接のみ。ただし、どういう人材が必要かをはっきり出しておく。グループディスカッション中心。</p> <p>特 色：<u>スポーツ</u>を活かした正課、正課外を連携させたカリキュラム</p> <p>授 業：・チームビルディング（<u>自発性</u>） ・<u>スポーツマネジメント</u> ・<u>コーチング（リーダー）</u> スポーツの手法を生かした工学・社会学教育 ・<u>バックアップを十分に</u>する（<u>カウンセラーの充実</u>）</p> <p>評 価：・地域連携</p> <p>卒 論：・地域の課題発見に基づく課題解決が<u>卒論</u></p> <p>卒 業 後：地元の就職率を上げる</p> <p>そ の 他：・厳しい環境だから出来ること ・スポーツを前面に出すが、あくまでも文理学問の大学であり、スポーツトレーナーを出す学校ではない</p>	

楽学班(B班)

司会者：竹中

記録者：柴

発表者：柴

1. 大学の理想・目標 + 2. 方略
 理想の大学 { (3) →今後の検討課題！

- ①一般社会ではできないことに挑戦できる
 →その環境作りが大学の役割
 - ▶②モチベーションが上がる大学
 →こんな面白いことができる
 - ③教員・学生の多様性・自由度を最大限に尊重できる→コンセンサスをどうとるか
 - ④研究・教育面の柱・モデルの形成
 - ⑤個性の最大限尊重
 少人数教育・導入教育の重要性
 - ⑥“いつでも入学”“いつでも卒業”
 大学教育の必要性を感じたときに学べる
 - ⑦全国の大学で分業→特化
2. マンパワーの生かし方
- ・教員と事務職員のカベの撤廃
 - ・教養と専門の融合
4. 評価方法
- (国が方針を確立するのが先であるが)
- ・質をどう評価するか(数値目標ではない)
 - ・多様性の評価—教員の自己申告



シー蔵王班(C班)

司会者：鶴浦

記録者：佐藤

発表者：阿部

1. 理想的な大学

- ① 学生が主体的にすべてを動かす大学
- ② 中等教育～高等教育の幅の中で学生の幅広い学びが主体的にできる大学
- ③ キャッチフレーズ「あなたが飛躍する大学」

2. - ・学部・学科ごとのアドミッションポリシー

- ・オープン・キャンパス
- ・スカウト制 (核になる学生)
- ・授業と連携した広報 大学の余裕
- ・教員・事務職員のFD・SD

3. - ・社会との連携の中で学生の主体性が培われる

- ・学科 間連携 (副専攻、くくり) 入学
学部
- ・実学的トレーニング
モラトリアムの克服に有効
- ・不易流行 「不易」見出し、向上できる姿勢
- ・解凍 高校迄の甘えを砕く

4. - ・学生による自己評価

- ・年次段階に応じたキャリア教育
- ・組織論
 - ┌ 学生評議会
 - └ 学外・地域による評価 (理想追求)

愛班(D班)

司会者：真木

記録者：山崎

発表者：野田

1. 大学の理想・目標

- ・ 人間性を高める（人間性を備えた学生を育てる）
- ・ 「学生の一人一人の個性を伸ばす教育」

イメージ ICU

2. 方法

- ・ 少人数教育（教員の数を増やす）
- ・ 1年生からのセミナール教育（10～15人学生/教員）
（読む、書く、聴く、話す、そして考える） 複数セミナール
（＝複数の教員）
- ・ ワーク形式の教員の充実

3. 実行計画

- ・ アドミッションポリシー：「自分に自信が持てない」学生
- ・ 「地産地消」の大学→国際的にも適応（通用）できるように
- ・ 小規模大学（非都会） 場合によっては全寮制
- ・ 学問性を有するものの、教育者として活動できる教員
- ・ 1年生からのセミナール形式
- ・ 一定の基礎学力の検定は必要
- ・ 学長は管理者ではなく教育者としての立場
- ・ 厚生（保健）授業のための委員会（サポート体制）

4. 評価

- ・ 複眼的な評価システム（教科単位の評価を避ける）
- ・ 保護者、学外からの評価システム
- ・ 「自信を持って卒業できる」→教育評価

チェリー班(E班)

司会者：田邊

記録者：岡

発表者：岡

1. 大学の理念・目標

礼 節 知 技 （学生が主体的にキャリア形成できる人間教育）

2. 方略

学生と、教員のコラボレーション

すべての講義でのキャリア教育

質を合わせる

3. 計画

マニフェスト

パンフレット等で

応援団 地域、卒業生

リーダーシップ（学長等）

4. 評価

保護者 地域から マニフェストの評価

外部評価



ストーンズ班(F班)

司会者：齋藤

記録者：石丸

発表者：若林

1. 学生が来て良かったと思う大学

2つの視点 (学生の満足度) ← 社会に通用する (より良い生き方)
 友達ができて成長できた

理念・目標

1. 専門的な知識・技能
2. より良い生き方としてのキャリア
3. 豊かな人間関係を育てる

キャッチフレーズ

- ・ 入って良かった、入れて良かった、採って良かった、勤めて良かった〇〇大学
- ・ 満足保証の〇〇大学

2と3 学生の視点→大学の魅力は友達作り

方法

① 共通の負荷をドンとかける。入学当初に。

||

つらいと思うこと 集団活動

② 1人の学生を Total で見るシステム→カルテ化

定期的に行うのは？

クラス活動、スポーツ実習、この中に先輩が加わる

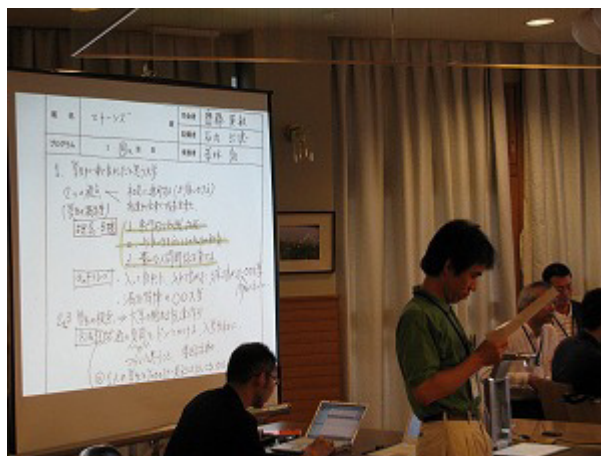
③ 具体的な目標モデルに接する (OB)

フィールド学習 (ワーク)、オーダーメイド型フィールドワーク

4. 仕組みとして外部評価

卒業生へのアンケート 誰に評価してもらうか？

寄付金レベル評価 など



◇グループ作業記録 プログラムII 全体討議記録◇

- ⑥ 1) 学生が来てよかったと思う大学
- 2) 3) ・学生の

┌	集団教育
	個別教育
- ・具体的目標に触れる
- 4) 卒業生の外部価値・寄付金の利用
- ⑤ 1) 主体的なキャリア形成ができる教育
- 2) 学生・教育のコラボ
すべての講義でのキャリア教育、教育の質を合わせる
- 3) マニフェストの作成
- 4) マニフェストの外部評価
- ④ 1) 人間性を高める（個性を伸ばす）教育
- 2) 少人数教育、教員数↑、ゼミナール
- 3) 教員は教育者として、地産地承の大学
- 4) 保護者、外部からの評価、教育相互評価
- ③ 1) 学生が主体的に全てを動かす大学
- 3) 社会との連携
不易を見出し向上できる姿勢で
- 2) 教員の余裕を
オープンキャンパス、スカウトなど
- 4) 学生の自己評価、年次段階に応じたキャリア教育
- ② 1) モチベーションが上がる大学
- 2) 3) 教員、学生の多様性・自由度を
モデルを作成
個性の尊重→導入教育
専門と教養教育の融合
- 4) 質をどう評価するか？数値目標は可能なのか？
- ① 1) ストレス耐性を。問題への対応力

- 2) 3) フォローアップしながら厳しさを教育
スポーツを活かした連携カリキュラム
カウンセラーなどのバックアップを
- 4) 地域連携

《全体討論》

- ・ 学習モデルとして
 - 具体的な目標（OB など）に接することができる環境づくりが必要なのでは
- ・ （大学への）入口の問題
 - ・ 基礎学力の低下
 - ↳ 大学で教育をしないべきか
 - ・ 意欲のある学生のみ入学させた場合、大学側は対応できるのか

などの問題点につき意見が出た。



楽学班(B 班)

司会者：全員（フリー討議）

記録者：橋本

発表者：石井

共通テーマ 大学の個性を発揮する授業

授業名：他大学研究による自大学再発見（仮題）

学習目標：他大学と自分の大学を比較することを通じて、自分の大学の魅力を認識し自己の知的成長につなげるとともに、生涯学習の基礎を築く

学習目標：少なくとも2大学が連携し、それぞれの大学でチーム学習を基本にした主体的な学習（他大学研究・自大学再発見 e t c）を行う。細部は学生たちの提案・意見をとり入れながら教員との協働作業で決定する。

ポイント：・コンペティションなどの活用（多人数の活用）

- ・具体的相互交流（自慢大会）
- ・相互研鑽的要素
- ・楽しく学ぶ
- ・人的ネットワークの拡大



<h1>愛班(D班)</h1>	<p>司会者：山崎 記録者：野田 発表者：篠崎</p>
<p>テーマ「国際性を培う授業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業名「食文化入門」～食べて学ぶ世界の文化～ ・学習目標の設定 <ol style="list-style-type: none"> 1 踏まえておくべきことから <ul style="list-style-type: none"> ・学生による授業運営を主として、教員はアドバイスする（スーパーバイザー） ・大学の全体的な教育目標→「学生に自信をもたせる」「自主自立」 ・講義の14・15回には日本の食についてプレゼンするための視点を養う。 2 学習目標の記述 <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;"> <ol style="list-style-type: none"> ①授業の目標 <p>各国の食文化を通じて民族の歴史、文化を理解する。</p> ②到達目標（知・興・技） <ul style="list-style-type: none"> ・各国の食文化の違いを知る ・食文化から歴史・宗教の違いを説明できる ・その国の料理を紹介することができる ・食のマナーを理解できる（ex, 左手を使ってはいけない、ケラプ、テーブルマナー） <p>★日本の食について英語でプレゼンできる（14回、15回）</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <p>・オリエンテーション</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> { <ul style="list-style-type: none"> アジア イスラム アフリカ ヨーロッパ e t c </div> </div> <p>各3回</p> <p>・日本の食（2回）</p> </div> 3 学習方法 <p>10人～15人の少人数の演習（調理実技を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ形式 ・英語でパンフレットを作成（日本食を外国人に知らせる食のマナー、歴史、背景） <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人的な面→留学生、大使館員、商社マン ・物的な面→調理実習室（キッチン e t c 施設）、演習室、OHP、スライド ・予算→講師費用、材料費（1回1万5千円） 	

チェリー班(E班)

司会者：田中

記録者：森

発表者：森

地球温暖化—私たちが考えること 私たちが行動すること—

学習目標

- ・現状の理解
- ・将来の予測
- ・原因の認識
- ・対策の検討と発信



到達目標

- ・現状の把握と説明
- ・日常における対策の必要性・行動化

シラバス

主体性重視

教員

- 1～3回 学生の分析・問題抽出
- 4～6回 現状・予測・原因の情報提供（講義）
- 7～8回 フィールドワーク（現場・実地）
- 9～13回 グループ化・討論・検討作業
- 14回 全体まとめ
- 15回 ポスター発表
発信（大学・メディア）
→具体的な寄与・貢献



ストーンズ班(F班)

司会者：石田
記録者：石丸
発表者：齋藤

テーマ：職業意識と労働意欲を培う授業
実施時期：1年後～2年前、学習集団40人程度

① 授業名

『夢・人生設計 **未来予想図 I**』(タイトル)

労働の意義→働くとは？

- ①まず夢を語る(5年後、10年後…の自分のイメージ)
- ②人生設計→発表
 - 多様な職業の検索→グループワーク
 - OBに講演(複数名)→発表
 - 研修、現場を知る、丸1日体験→レポート
- ⑤起業してみよう!!起業するには?
 - ・収入・所得、リスクマネジメント…

授業の内容

② 学習目標

- 授業目標：①学生が自分の将来をふまえて職業人として生きていく未来像をえがくことができる
- 到達目標：②**知識**「現代の社会および人間にとっての職業・労働の意義を適切に説明することができる」
 - 技能**「現代職業・労働に関して調査、比較し客観的に報告することができる」
 - 態度**「今後の社会、および自分の姿をふまえて、自分にとって適切な職業を考え表現することができる」



◇グループ作業記録 プログラムIII 全体討議記録◇

◎地域の人が学生を知らない

- 1 「自分たちにとっての地域社会」
- 2 地域の問題から普遍的な問題へ

◎ 1 「食文化入門—食べて学ぶ世界の文化」

- 2-1 スーパーバイザー、自主自立
- 2-2 食文化を通じて民族理解
- 3 少人数演習

◎ 1 「夢・人生設計・未来予想図」

- 2 自分の将来をふまえ職業人として生きていく未来像をえがくことができる。

◎ 1 「他大学研究による自大学再発見」

- 2 自分の大学の魅力を認識など
- 3 チーム学習

◎ 1 「エコスポーツ基礎」

- 2 コミュニケーションなど
- 3 クロスカントリー、スキー、地域連携

◎ 1 「地球温暖化—私たちが考えること 私たちが行動すること—」

- 2 現状の理解、将来予測、原因の認識、対策の検討
- 3 フィールドワーク、グループディスカッションなど

「全体討論」

・学生の実態について

◎自分に自信を持たせる。

◎夢をえがけない。職業については浅い理解。

◎自分の大学に自信を持ってない。モチベーションをあげる。

◎チームで問題解決の体験がない。

◎無力感。

プログラムⅣ 「科目設計2:シラバスの完成」

◆ グループ作業記録

授業科目名	エコ・スポーツ基礎	(Tree Ice班(A班))
担当教員	全教員	(樹氷大学)
担当教員の所属	全学	
開講学年	1年	開講学期: 後期
開講対象	1年次	科目区分: 全学共通科目
	単位数: 2単位	開講形態: 実践

【授業概要】

- テーマ
スポーツを通じて、地域・環境の課題を発見し、チームで対応策を考える
- ねらい
問題点を発見し、分析、対応する力を身につける
- 目標
 - ①自らが社会においてコミュニケーションできるようになる
 - ②環境問題に気付き、解決できるようになる (知識)
 - ③チーム活動を通して、リーダーシップと協調性を身につける (技能)
 - ④社会で活動するための体力を身につける (体力)
- キーワード
ウィンタースポーツ、地域、環境、チーム

【授業計画】

- 授業の方法
「講義1コマ・フィールドワーク2コマ・ディスカッション2コマ」×3 15 3つのUnit
- 日程

<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション スポーツ 2. 実施 (クロスカントリー その1) 3. ディスカッション※ 4. 実施 (クロスカントリー その2) 5. ディスカッション※ 6. 講義 (蔵王ガイドによる) (環境問題・地域環境・マクロとミクロ) 7. フィールドワーク (スキー実習「無機物・雪・温泉・気温」データとの検証) 8. フィールドワーク (スキー実習「生物」データとの検証) 9. ディスカッション※ (問題発見) 10. ディスカッション※ (問題発見) 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">Unit 1</div>	<div style="font-size: 4em;">}</div>	I
<ol style="list-style-type: none"> 6. 講義 (蔵王ガイドによる) (環境問題・地域環境・マクロとミクロ) 7. フィールドワーク (スキー実習「無機物・雪・温泉・気温」データとの検証) 8. フィールドワーク (スキー実習「生物」データとの検証) 9. ディスカッション※ (問題発見) 10. ディスカッション※ (問題発見) 		<div style="font-size: 4em;">}</div>	II

11. 講義（コミュニケーション理論・接遇）
12. 課題発見・まとめ（コオプ教育）
13. ディスカッション※
14. 発表準備（プレ発表）
15. 発表会（公開授業）地域、マスコミ

Ⅲ

- ディスカッション（インターチーム）

【学習の方法】

- 受講のあり方
 - チーム内の活動は、正規授業時間外で実施（授業時間の2倍は自習が必要）
 - 教員と地域との関連、連携のあり方（調整） P o i n t

- 予習のあり方

地域でのコオプ教育、住民との触れ合い

- 復習のあり方

授業内講義と体験を踏まえたグループディスカッション
(インターチーム)

【成績評価の方法】

- 成績評価基準

- 5、10、13 インターチームディスカッション（10点×3）…学生相互評価
- 15 教官による質問（口答試問）…認知・知識について（20点）
- 15 地域の方のアンケート（30点）
- 15 学生による最終相互評価（20点）

- 方法

【テキスト】

【参考書】

【科目の位置付け】

本学全ての専門性

} 蔵王の自然環境と住民
の基礎

【その他】

- 学生へのメッセージ
「エコ・スポーツⅡ」を継続受講すること
- 履修に当たっての留意点
- オフィス・アワー
- ・ 担当教官の専門分野

授業科目名 他大学と比べてウチの大学は… (楽学班 (B班))

担当教員： 楽学 ()

担当教員の所属：

開講学年： 1～4 年 開講学期： 前期 単位数： 2 単位 開講形態： 講義
フィールドワーク

開講対象： 1～4年次 科目区分： 全学対象科目 (教養)

【授業概要】

● テーマ

他大学研究を通じた自大学再発見

● ねらい

他大学と自分の大学を比較することを通じて自分の大学の魅力を認識し、自己の知識成長につなげるとともに、生涯学習の基礎を築く

● 目標

- 人間力（生きる力）を養い、自己の成長につなげることができる
- 競争を通して楽しく学ぶことで知的好奇心や学ぶ力を高める

● キーワード

コンペティション、相互交流

【授業計画】

● 授業の方法

他大学と連携し、それぞれの大学でチーム学習を基礎とした主体的な学習を行う。細部は学生たちの提案・意見を取り入れながら教員との協働作業で決定する 100名→4人チームで25チーム

● 日程

- 1－3回 オリエンテーション
- 4－7回 自大学研究・学内コンペティション（2回は行う）
- 8－11回 他大学研究
- 12回 学内予選
- 13回 ブラッシュアップ
- 14回 大学対抗戦
- 15回 総括

【学習の方法】

● 受講のあり方

授業および授業時間以外の積極的参加が求められる

- 予習のあり方
コンペティションに備え、自主学習を行う
- 復習のあり方
コンペティションの結果をふまえ、次の作戦を立てたり、準備を行う

【成績評価の方法】

- 成績評価基準
コンペティションの結果（3回分）
大学広報誌（個人レポート）
- 方法
グループ活動と個人レポートで総合的に評価を行う

【テキスト】

【参考書】

【科目の位置付け】

【その他】

- 学生へのメッセージ
- 履修に当たっての留意点
- オフィス・アワー
- 担当教官の専門分野

授業科目名 自分にとっての地域社会 (シー蔵王班 (C班))

担当教員： シー・蔵王 (C・ZAO)

担当教員の所属：

開講学年： 1 年 開講学期： 前期 単位数： 2 単位 開講形態： 演習

開講対象： 必修 科目区分：

【授業概要】

● テーマ

地域の産業・歴史・文化・風土を学ぶ

● ねらい

学生が主体的に地域について学ぶ。

● 目標

- ・ 学生が地域の課題を通して、普遍的な課題を発見する
- ・ 今を生きる学生が歴史的なつながりを体感する

● キーワード

地域、継承性、連携、コミュニケーション

【授業計画】

● 授業の方法

● 日程

回	内容	回	内容
1	ガイダンス	9	グループワーク②
2	地域の課題の自覚	10	(調査と専門家の講義)
3	グループテーマの設定と先行調	11	グループワーク③
4	査の実施	12	(調査と専門家の講義)
5	グループ発表と相互評価	13	中間評価
6	①プレテストの実施 ②学生の自覚 ③グループ活動計画の策定	14	総合発表
7	グループワーク①	15	
8	(調査と専門家の講義)		

【学習の方法】

- 受講のあり方
- 予習のあり方
- 復習のあり方

【成績評価の方法】

- 成績評価基準
 - ①プレテスト : 問題発見力、意欲、プレゼンテーション (20)
 - ②中間テスト : 問題発見能力、生体性 (40)
 - ③ポストテスト : 最終ポスター発表の評価 (40)
- 方法
 - 生体性、課題発見探求力、自分の問題としての認識の総合的判断
 - レポート、プレゼンテーション

【テキスト】

【参考書】

【科目の位置付け】

【その他】

- 学生へのメッセージ
- 履修に当たっての留意点
- オフィス・アワー
- 担当教官の専門分野

授業科目名 地球温暖化 私たちが考えること、行動すること (チェリー班 (E班))

担当教員： チーム ()

担当教員の所属：

開講学年： 1 年 開講学期： 前・校期 単位数： 2 単位 開講形態： 講義

開講対象： 全員 (導入教育) 科目区分： グループ討論
フィールドワーク

【授業概要】

● テーマ

地球温暖化

● ねらい

身近な問題で、かつ重要な課題である地球温暖化について理解し、行動する

● 目標

地球温暖化

- ・ 現状の理解 ・ 原因の認識
- ・ 将来の予測 ・ 対策の検討と発信

● キーワード

地球温暖化、メタン、CO₂、気象変動、エネルギー、食料生産、砂漠化、海面上昇

【授業計画】

● 授業の方法

- ・ 講義 (パワーポイント)
- ・ グループ討論
- ・ フィールドワーク
- ・ プレゼン (ポスター、OHP)

● 日程

- ・ 1-3：学生による分析、問題抽出
1回：ガイダンス (問題発見)、2回：情報収集、発表準備、3回：発表
- ・ 4-6：教員による情報提供 (講義)
4回：地球温暖化の現状・将来予測、5回：原因、6回：対策
- ・ 7-8：フィールドワーク
7回：気象と農作物から見た地球温暖化の実態調査
8回：エコ関連施設 (企業) の研修
- ・ 9-13：グループ化→グループ討論
9, 10回：抽出→検討 (現状認識) →原因
11回：中間発表 (アドバイス)
12, 13回：対策

-
- ・ 14回 : まとめ (ポスター作成)

- ・ 15回 : プレゼン

【学習の方法】

● 受講のあり方

主体的・積極的な意識改革と行動

● 予習のあり方

情報収集をして自分のレポートとしてまとめておく

● 復習のあり方

指摘事項補足

【成績評価の方法】

● 成績評価基準

① レポート	20%
② プレゼン（2回）	50%
③ 学生評価（グループ）	30%

● 基準

レポート→内容、妥当性、創造性、発展性を判断

【テキスト】

なし

【参考書】

適宜指示

【科目の位置付け】

導入（教養）

【その他】

● 学生へのメッセージ

この授業は、学生が主体的に作り上げていく授業であることを自覚して取り組んで欲しい

● 履修に当たっての留意点

（必修）

● オフィス・アワー

A：16：00－18：00

B：16：00－18：00

C：16：00－18：00

● 担当教官の専門分野

情報処理、社会、物理

授業科目名 未来予想図 - 夢・人生設計 - (ストーンズ班 (F班))

担当教員： ()

担当教員の所属：

開講学年： 1 年 開講学期：後期 (2年生からの履修につなげる) 単位数： 単位 開講形態：講義・演習

開講対象： 全学年 (クラス 20 名 × 4 クラス) 科目区分：選択必修

【授業概要】

● テーマ

職業意識と労働意欲を培う授業

● ねらい

自分の将来をふまえ、職業人として生きていく未来像を描くことができる

● 目標

- ・ 現代の社会および人間にとっての職業・労働の意識を適切に説明することができる
- ・ 現代の職業・労働に関して調査・比較し、客観的に報告することができる
- ・ 今後の社会および自分の姿をふまえ、自分にとって適切な職業を考え表現することができる。

● キーワード

【授業計画】

● 授業の方法

講義 フィールドワーク

演習

実習

1) オリエンテーション (授業のねらい・課題について)

2) 未来予想図 I (作文作成・スピーチ) ビデオ録画

夢を語る (自分の将来像、800字)

形式的評価

3) 人生設計

個人で検討・グループで討論 (GW) 1グループ4名×5グループ

職業リサーチ (大学への求人情報調査も含む)

4) ~6)

各G複数の職業についてリサーチ

技能評価

調査対象・調査項目の設定、調査、報告書の作成

7)・8)

技能評価

シンポジウム (企画・運営は学生主体で教員がフォロー)

1コマ3名のOBを招き、講演・ディスカッションを行う

9) 仕事とは、働くとは (講義)

職業・労働の意義について講義

1 0) ~ 1 1)	<u>知識評価</u>	5 0 %
現場研修 (1 日体験、① <u>研修報告・発表</u>)	<u>技能評価</u>	5 0 %
1 2) ~ 1 4)		
<u>起業演習</u>	<u>知識評価</u>	2 0 %
1 2) 起業入門 (講義導入)	<u>技能評価</u>	4 0 %
1 3)・1 4) 演習・まとめ (② <u>プレゼンテーション</u>)	<u>態度評価</u>	4 0 %
1 5) ③ <u>未来予想図Ⅱ</u>		
具体的に自分の職業・人生設計を <u>考える</u>	<u>態度評価</u>	1 0 0 %

到達度評価 ①、②、③

形成的評価 上記以外

1 0) ~ 1 1)	<u>知識評価</u>	5 0 %
現場研修 (1 日体験、① <u>研修報告・発表</u>)	<u>技能評価</u>	5 0 %
1 2) ~ 1 4)		
<u>起業演習</u>	<u>知識評価</u>	2 0 %
1 2) 起業入門 (講義導入)	<u>技能評価</u>	4 0 %
1 3)・1 4) 演習・まとめ (② <u>プレゼンテーション</u>)	<u>態度評価</u>	4 0 %
1 5) ③ <u>未来予想図Ⅱ</u>		
上り具体的に自分の職業・人生設計を <u>考える</u>	<u>態度評価</u>	1 0 0 %

到達度評価 ①、②、③

形成的評価 上記以外

【学習の方法】

- 受講のあり方
- 予習のあり方
- 復習のあり方

【成績評価の方法】

- 成績評価基準
- 方法

【テキスト】

【参考書】

【科目の位置付け】

【その他】

- 学生へのメッセージ
- 履修に当たっての留意点
- オフィス・アワー

- 担当教官の専門分野

◇グループ作業記録 プログラムⅣ 全体討議記録◇

<発表順> A→F→E→C→D→B

<全体討議>

(総合司会) A班に経済面で実現可能か

(A班) 土・日のアルバイトで収入がある

(総合司会) 評価法について付け加えがあったら

(F班) 研修で知識50%、技能50%等それぞれに設定

(総合司会) E班に学生相互による評価に関して、その功罪等がないか

(E班) 悪いところよりも、より良いものを作ろうということ

(総合司会) C班に中間評価の提案だったが、最後になってしまったのではないか

(C班) 結果として最後になってしまった。最後のポスター発表に向けての前段階評価である

(総合司会) D班に、10～15人の設定だが、40人程多人数になった場合はどう対応するのか

(D班) 複数教室による対応か、選考する等で対応

(総合司会) B班に、1～4年までということだが、全学年対象にすることのデメリットはないか

(B班) 異なる学年での交流の機会が少ない状況の中で意味がある。



第9回 教養教育FD合宿セミナーパンフレット第2チームの抜粋

FD合宿セミナーに当たって

山形大学では、平成13年度よりこの合宿セミナーを実施し、教養教育の目標や授業の企画、シラバス作成を通して授業のスキル向上を実現するとともに、学部間の人的交流の拡大・充実を図ってまいりました。このような基盤のうえに、今年度より、さらに「授業改善」に焦点化したアドバンスプログラムを実施することになりました。

このセミナーの第一の目的は、「個人個人の教員が教育者としての自己認識の深まりと学生の学びを大切にする授業、および授業改善の方法を具体的なケースを交えて考察・議論し、学生を中心とする教育・授業を発展させること」です。この目的を達成するために、本セミナーでは4つの参加型ワークショップを行います。これにより、参加者は学生が運営する学生主体型授業を体験することにもなります。

また、「ワークショップを共通の題材として、学部間の人的交流の拡大・充実を図ること」が第二の目的です。他部局の参加者と活発な議論を交わしながらプログラムを遂行し、セミナーが終了した後は、参加者が山形大学の教養教育を始めとした教育全般の発展に、より一層積極的に貢献されることを期待しています。

このセミナー終了後には、参加者が教養教育を始めとした大学教育分野全般の発展に、より一層積極的に貢献されることを期待しています。このセミナーは、「構成員こそが大学の財産」という精神でのぞんでいます。

更に、このセミナーはFDネットワーク“つばさ”の参加校を始めとして、全国の大学等に開かれています。他機関からの参加者にとりましても、本セミナーで学んだことは自校の教育の発展に活用することができるのと同時に、参加者がそれぞれの大学等の財産となる、さらにはそれが我が国全体の財産となるという精神でのぞんでいます。本セミナーが、相互研鑽の精神に則り、参加された大学・短大・高専の発展に寄与されんことを願っております。



第9回 山形大学教養教育FD合宿セミナー日程表

期 間 第2チーム：8月4日（火）～5日（水）

○第1日目

時 刻	項 目	担 当
12:50	山形大学集合・受付（正門付近）	事 務
13:00	送迎バス 大学出発	
14:00	会場到着・記念撮影 セミナー開会 開会のあいさつ	司会：杉原
14:30	オリエンテーション	杉原
14:40～15:10	アイスブレイク	佐藤
15:10～16:50	プログラムⅠ「あなたの、私の、授業実践」	佐藤
16:50～17:00	休憩（10分間）	
17:00～18:10	プログラムⅡ「コーチングとFDと」	佐藤
18:10～19:00	夕食（その後お風呂・休憩）	
19:00～21:00	入浴・休憩	
21:00～22:30	懇親会	
22:30	中締め	
23:00	就寝	

○第2日目

時 刻	項 目	担 当
7:30～	朝食・部屋退出	
8:30～10:00	プログラムⅢ「授業力の向上 ーわかりやすい授業を実現するためにー」	大島
10:00～10:10	休憩（10分間）	
10:10～11:40	プログラムⅣ「研修のふりかえりとまとめ」	大島
11:40～	修了式（ポストアンケート）	司会：杉原
12:20～	昼食	
13:10	送迎バス 蔵王山寮出発	
15:00頃	山形駅経由 大学到着 解散	

【留意事項】

- セミナー期間中の途中からの参加及び離脱は禁止とします。
- セミナー期間中の個人の呼称は、「〇〇さん」とします。
- 食事はセルフサービスとなります。食事時間になりましたら、共同で配膳作業等を行ってください。
- 起床と同時に、寝具を使用前と同様に整理・整頓し、使用した宿泊室・廊下等を清掃してください。
- 退出の際は、使用したシーツ・枕カバーをたたんで、指定する場所に返却してください。

第9回 山形大学教養教育FD合宿セミナー 班名簿

1日目

DR-A	佐藤龍子
DR-B	大島武

A班:	氏名	性別	B班:	氏名	性別	C班:	氏名	性別
山大地教	三浦登志一	男	山大人文	森岡卓司	男	山大人文	中澤信幸	男
山大農	佐藤智	男	山大工	高橋幸司	男	山大工	古川英光	男
神工	遠山紘司	男	八工	小林繁吉	男	芸工	渡部諭	男
九共	園田裕虎	男	仙台	荒井龍弥	男	東薬	都筑幹夫	男
仙台	永田秀隆	男	九共	中山伸介	男	桜聖	坂本真一	男
山保	菊地圭子	女	福女	大庭三枝	女	羽陽	小林浩子	女

E班:	氏名	性別	F班:	氏名	性別	G班:	氏名	性別
山大人文	真保智行	男	山大人文	丸山政己	男	山大医	井内良仁	男
山大理	鈴木利孝	男	山大医	斎藤尚宏	男	山大工	深見忠典	男
明星	鈴木政雄	男	山保	熊谷純	男	弘前	中澤勝三	男
法政	高柳俊男	男	東理	今村武	男	京薬	葛城大介	男
鶴専	加田謙一郎	男	山大工	八塚京子	女	桜美	橋爪孝夫	男
西福	山本真紀	女						

2日目

A班:	氏名	性別	B班:	氏名	性別	C班:	氏名	性別	D班:	氏名	性別
山大工	八塚京子	女	山大人文	真保智行	男	山大地教	三浦登志一	男	山大人文	丸山政己	男
山大農	佐藤智	男	山大工	高橋幸司	男	山大工	成田克	男	山大工	古川英光	男
同志	浅野健一	男	神工	遠山紘司	男	山保	熊谷純	男	弘前	中澤勝三	男
法政	高柳俊男	男	明星	鈴木政雄	男	九共	園田裕虎	男	仙台	荒井龍弥	男
九共	中山伸介	男	東理	今村武	男	福女	大庭三枝	女	羽陽	小林浩子	女
			山保	菊地圭子	女	宝仙	林隆嗣	男	鶴専	加田謙一郎	男

E班:	氏名	性別	F班:	氏名	性別	G班:	氏名	性別
山大地教	伊藤貢士	男	山大人文	中澤信幸	男	山大人文	森岡卓司	男
山大医	井内良仁	男	山大医	斎藤尚宏	男	山大理	鈴木利孝	男
山大工	深見忠典	男	東薬	都筑幹夫	男	芸工	渡部諭	男
八工	小林繁吉	男	筑技	関田巖	男	京薬	葛城大介	男
桜美	橋爪孝夫	男	仙台	永田秀隆	男	桜聖	坂本真一	男

山大医:山形大学医学部 山大工:山形大学工学部 山大農:山形大学農学部
 明星:いわき明星大学 桜美:桜美林大学 北情:北海道情報大学 大女:大阪女子短期大学 神工:神奈川工科大学 福工:福井工業大学
 西福:関西福祉科学大学 九共:九州共立大学 桜聖:桜の聖母短期大学 昭音:昭和音楽大学 仙白:仙台白百合女子大学 筑技:筑波技術大学
 東情:東京情報大学 東理:東京理科大学 同志:同志社大学 長技:長岡技術科学大学 日大:日本大学
 仙台:仙台大学 鶴専:鶴岡工業高等専門学校 東薬:東京薬科大学 宝仙:こども教育宝仙大学
 八工:八戸工業大学 八戸:八戸大学 羽陽:羽陽学園短期大学 法政:法政大学 北翔:北翔大学 松本:松本大学 名桜:名桜大学
 山保:山形県立保健医療大学 岡山:岡山大学 弘前:弘前大学 人環:人間環境大学 芸工:東北芸術工科大学
 名女:名古屋女子大学 立教:立教大学 了徳:了徳寺大学 福女:福山市立女子短期大学 京薬:京都薬科大学

オリエンテーション

1 FDの必要性

- ① 大学の社会的教育責務の明確化。
- ② 大学教育を教員中心から学生中心へ移行することの教員の意識改革。
- ③ 大学生の質の変化への対応。

2 合宿セミナーの目的

- ① 教員個人が大学を支えることの位置付け。
- ② 学生一人ひとりの発達と同様に教員一人ひとりが同僚の力を得て発達することを改めて確認する。
- ③ 教授法について共に考え、スキルアップする。
- ④ 教員相互の交流。

3 セミナー形態

体験型のセミナーで、セミナー自体がグループ学習形式であり、参加者は、学生が運営する学生主体型授業を体験することになります。

- ① 参加者によるセミナー全体の運営
- ② セミナーのグループ構成：7班
「プログラムⅠ・Ⅱ」（1日目）と「プログラムⅢ・Ⅳ」（2日目）で、班構成を替えます。
- ③ プログラムによっては、全体での発表の際に記録をとるための記録係を置く場合があります。また、グループワークにおいて、各班に、司会者、記録係等を置く場合もあります。
- ④ 「③」で記録したものは、各プログラム終了後に提出していただきます（この記録は、こちらでコピーした後、速やかに全班に配付します）。
- ⑤ 最終日に合宿セミナーに関するポストアンケートを実施します。

※ プログラムⅠ「あなたの、私の、授業実践」では、皆さんお一人おひとりの授業実践（特に教育方法の改善等）について、お話いただきます。各人の教育方法を共有化すると意外なお宝が発見できます。

※ プログラムⅡ「コーチングとFDと」は、グループ内でプレゼン、コーチングをしていただきます。

※ プログラムⅢ「授業力の向上 ーわかりやすい授業を実現するためにー」は、授業スキルについての講義を聴いたうえで、「よりよい授業、わかりやすい授業」をテーマにディスカッションしていただきます。

※ プログラムⅣ「研修のふりかえりとまとめ」は、プログラムⅢの討議結果の発表、及び全体のまとめを行います。

平成21年度 第9回山形大学教養教育FD合宿セミナー
「相互研鑽による教養教育の飛躍をめざして」

プログラムⅠ「あなたの、私の、授業実践」では、皆さんお一人おひとりの授業実践（特に教育方法の改善等）について、お話いただきます。独自の教育実践を積み重ねている方、これまでの経験を踏まえて毎年新しいチャレンジをしている方、特に意識していないが、この点は気をつけているという方など、各人の教育方法を共有化すると意外なお宝が発見できます。秋からの授業に活用できる「新しい発見」があると思います。

プログラムⅡでは、コーチングスキルの一部を体験します。Teaching 技術だけでなく、Coaching 技術を学ぶことにより、教えるスタイルの幅が少し広がるでしょう。教え込む（外から内へ）だけでなく、引き出す（内から外へ）方法を学びます。コーチングは学生だけでなく同僚にも応用可能です。各学部・部局でコーチングマインドを持ってFDを進めると、新たな展開が生まれるかもしれませんね。

プログラムⅢでは、1日目のプログラムで検討した内容を実現するための基礎となる「授業力の向上」を目指して、講義+ディスカッションを行います。

プログラムⅣでは、プログラムⅢのディスカッション結果を全体発表するほか、本研修全体のまとめを行います。自分のコミュニケーションスタイルは、この研修をとおして他のメンバーにどのように映ったのか、イメージ交換ゲームで体感してください。

プログラムⅠ 「あなたの、私の、授業実践」

（タイムスケジュール）

- プログラムの講師による作業内容の説明 8分
 - 考える時間+記入時間 10分
 - プレゼン 1人3分
 - 質疑 2分（プレゼン+質疑=5分×6人=30分）
 - チームで共有化・チームでよかった実践3つ選ぶ 15分
 - プレゼン 各チーム4分（×7=28分）
- 全体で 100分

プログラムⅡ 「コーチングとFDと」

- プログラムの講師によるコーチングと作業内容の説明 20分
 - 「あなたにとっての最高のチャレンジ」
 - 考える時間+記入時間 8分
 - ペア作業（ヒーローインタビュー） 16分（8分×2人）
 - 質疑応答 10分
- 全体で 60分

プログラムⅢ「授業力の向上 ―わかりやすい授業を実現するために―」

- プログラムの講師による内容の説明 5分
 - 「授業力向上のためには ―ケーススタディー」(講義) 55分
 - 「よりよい授業を目指して ―ディスカッション―」 30分
- 全体で 90分

プログラムⅣ「研修のふりかえりとまとめ」

- プログラムⅢの検討結果のプレゼン 5分×5班 25分
 - イメージ交換ゲームの実施 30分
 - イメージ交換ゲームのふりかえり 15分
 - 研修全体のまとめ ―学びをFDに生かしていきましょう― 20分
- 全体で 90分

アイスブレーキング

プログラムⅠ「あなたの、私の、授業実践」

ここでの課題

プログラムⅠ「あなたの、私の、授業実践」では、皆さんお一人おひとりの授業実践（特に教育方法の改善等）について、お話いただきます。独自の教育実践を積み重ねている方、今までの経験を踏まえて毎年新しいチャレンジをしている方、特に意識していないが、この点は気をつけているという方など、各人の教育方法を共有化すると意外なお宝が発見できます。FD活動の原体験とも言える授業実践の共有化を、全国の大学のみなさんと一緒に体験しましょう。

(タイムスケジュール)

- プログラムの講師による作業内容の説明 8分
 - 考える時間+記入時間 10分
 - プレゼン 1人3分
 - 質疑 2分(プレゼン+質疑=5分×6人=30分)
 - チームで共有化・チームでよかった実践3つ選ぶ 15分
 - プレゼン 各チーム4分(×7=28分)
- 全体で 100分

プログラムⅡ「コーチングとFDと」

ここでの課題

プログラムⅡでは、コーチングスキルの一部を体験します。Teaching 技術だけでなく、Coaching 技術を学ぶことにより、教えるスタイルの幅が少し広くなると思います。教え込む(外から内へ)だけでなく、引き出す(内から外へ)方法を学びます。コーチングは学生だけでなく同僚にも応用可能です。各学部・部局でコーチングマインドを持ってFDを進めると、新たな展開が生まれるかもしれませんね。

- プログラムの講師によるコーチングと作業内容の説明 20分
 - 「あなたにとっての最高のチャレンジ」
 - 考える時間+記入時間 8分
 - ペア作業(ヒーローインタビュー) 16分(8分×2人)
 - 質疑応答 10分
- 全体で 60分

プログラムⅢ「授業力の向上 ーわかりやすい授業を実現するためにー」

ここでの課題

プログラムⅠ～Ⅱで検討した学生のモチベーション向上、授業への参画を実現するためには、まず教える教員自身に指導力・授業力が求められます。「わかりやすい」「興味の湧く」授業を実現するにはどうしたらいいのか。このセッションでは、授業スキルの向上という基本に立ち返り、講師の体験に基づく講義をベースにディスカッション形式で考えを深めます。

- プログラムの講師による内容の説明 5分
- 「授業力向上のためには ーケーススタディー」 55分
→次頁のレジュメにそった講義
- 「よりよい授業を目指して ーディスカッションー」 30分
→講義内容を踏まえ、よりよい授業を実現するためのポイントを整理する。
→自分の持っている問題点の洗い出しと解決策の模索を行う。
全体で90分

【ケーススタディ ー私の授業法ー】

1. ガイダンスのしかた

- 必ずワンペーパー作って渡す。 ← 最初の3週間で徹底

2. 授業の組み立て方

- 90分を3つのパートにわけると ← 話しの構造化
- 時間の使い方を予告し、守る。 ← 全体像を見せることが大切
- 「つかみ」が大切（冒頭に力をいれる） ← 終わりはすっきり

3. 効果的な表現技術

■ 言語表現の工夫

- ・ 「例示」の多用 ← 相手に合った例を挙げる
- ・ 「つなぎ言葉」の活用 ← ゆっくり間を取って話す
- ・ 「用語」の選択と位置付け ← 新出語に注意

■ 非言語表現の効果

- ・ 身体表現 ← gesture と posture の使い分け
- ・ 対人距離 ← 机間巡視／指導はどこまで有効か
- ・ 表情 ← 笑顔が基本（好意の返報性）
- ・ アイコンタクト ← プレッシャーと激励

4. 資料配付と板書

- 教科書の使い方 ← 買わせたら使う／使わないなら買わせない
- レジュメの効果 ← 情報を与えすぎない

- 板書は最高のビジュアル ← 小学校時代からのお約束

5. 双方向性の確保

- 発問のしかた（3つのポイント） ← 大切なのはリズム
- 紙ベースでのやりとり ← ex) 大手前短大「なるほどポイント」

6. 評価のしかた

- 「合わせ技」が基本 ← ex) 出席 10% リスニング 10%
小テスト 40%
プレゼン 20% 解答・提出物 20%
- 主観と客観のバランス ← 学生が納得できる基準を明示する
(妥当性・客観性・効率性)
- 個人情報保護と説明責任 ← 授業期間と終了後で区別

プログラムⅣ「研修のふりかえりとまとめ」

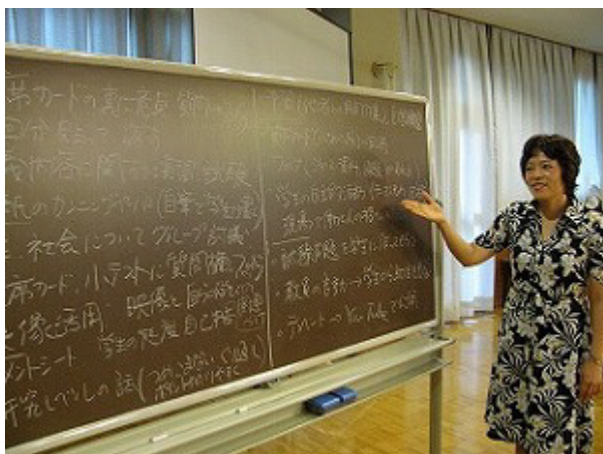
ここでの課題

プログラムⅢで議論、検討したより良い授業を実現するためのポイントについて、各グループに発表していただき、全体での分かち合いを行います。また、2日間の研修を通じて、自分のコミュニケーションスタイルが他人にどんな印象を与えたのか、イメージ交換ゲームを通じてふりかえります。

- プログラムⅣの検討結果のプレゼン 5分×5班 25分
- イメージ交換ゲームの実施 30分
- イメージ交換ゲームのふりかえり 15分
- 研修全体のまとめ 「学びをFDに生かしていきましょう」 20分
全体で90分

各プログラムの記録【第2チーム】

プログラム1 「あなたの、私の、授業実践」



プログラムII 「コーチングとFDと」



プログラムⅢ

「授業力の向上 –わかりやすい授業を実現するために–」

◆ グループ作業記録

A班

- ・ 時間配分の予告

適切な講義時間の配分を行い、重要ポイントをもれなく話す。

- ・ パワポを含む資料に工夫

発表用と資料用を作成し、資料用は学生に穴埋め形式で記入させるという方式が紹介された。(板書とパワポの間)

- ・ コミュニケーション (スマイル・発問)

双方向授業。

教える方も教えられる方も気持ちよく講義したいし、受けたい。

- ・ 身近な言葉、事例を使う

学生の立場に立って考える。

学生にとって身近な例を挙げ説明する。

- ・ 演技の要素を入れる

とにかく、教員自身が自信を持って講義を行う。



B班

1. 基本方針を明確にする。
2. 授業の構成
3. 授業の演出
4. 授業内容を学生の現状と結びつけて考えさせる
5. 学生の立場

C班

<学生との関係構築>

1. 顔と名前を覚えよう
(名前を呼ばれることで意欲アップ。学生を尊重する姿勢。)
2. 笑顔で元気良く
(教える熱意)
3. 双方向の仕組みを作ろう
(学生からも「なるほどポイント」フィードバックを授業改善に)

<授業構成>

1. 授業のルールを確立しよう
(授業の原則、座席、時間配分など初回から確認)
2. 話しを構造化しよう
(まとまりを持って学生理解を助ける)



G班

1. 15（13）回のルートマップを提示
 - … 自分が何を今勉強しているか
 - … 時間外学習
2. 「確認する」発言
 - … 「質問ありませんか」
 - … 「板書消していいですか」
3. 時間の厳守、使い方の告知
 - … 学生との約束
4. 「休む」
 - … 学生を「ゆるめる」時間も
5. 丁寧すぎるほど丁寧な授業を



プログラムⅣ 「研修のふりかえりとまとめ」



平成21年度 第9回 山形大学教養教育FD合宿セミナー
「相互研鑽による教養教育の飛躍をめざして」
ポ ス ト ア ン ケ ー ト

所属		氏名	
----	--	----	--

1 このセミナーには、積極的に参加しましたか。 で囲んでください。

とても消極的	やや消極的	なんとなく	やや積極的	とても積極的
--------	-------	-------	-------	--------

2 セミナーが終了した現在、参加して良かったと思っていますか。 で囲んでください。

とても悪かった	悪かった	普通	良かった	とても良かった
---------	------	----	------	---------

3 今回のセミナーにおける次の各項目について、個人的な収穫度(意欲,理解,応用など)を5段階で評価し、 で囲んでください。

	悪い	良い
(1) 教育全般	1	2 3 4 5
(2) 山形大学に対する主体的な参画意識	1	2 3 4 5
(3) グループ学習形式による学生主体型授業	1	2 3 4 5
(4) シラバスの書き方	1	2 3 4 5
(5) プログラム 大学へのニーズと課題	1	2 3 4 5
(6) プログラム 理想の大学をつくる	1	2 3 4 5
(7) プログラム 授業名と目標,内容の作成	1	2 3 4 5
(8) プログラム シラバスの完成	1	2 3 4 5
(9)参加者の相互合流	1	2 3 4 5

4 今回のセミナーを5段階で評価し、 で囲んでください。

(1) プログラムの内容の選択はいかがでしたか。	1	2 3 4 5
(2) 内容に対する時間配分はいかがでしたか。	1	2 3 4 5
(3) 内容の難易はどうでしたか。(1:簡単...5:難しい)	1	2 3 4 5
(4) グループ学習による体験型のFD合宿セミナーの教育効果はどうでしたか。	1	2 3 4 5
(5) このセミナーで示された学生主体型授業を,あなたの授業に取り入れようと思いますか。	1	2 3 4 5
(6) このセミナーの成果を,これからのあなたの教育活動に活かそうと思いますか。	1	2 3 4 5
(7) 今回のセミナー会場として蔵王山寮を利用したことについては,いかがでしたか。	1	2 3 4 5
(8) 今回のセミナーの開催時期はいかがでしたか。1または2に を付けた方は,下記の欄に御希望の時期を具体的に記入してください。 御希望の時期 [月 旬頃]	1	2 3 4 5
(9) 今回のセミナーの企画・運営を総合的に評価してください。	1	2 3 4 5
(10) 今回のDR陣を総合的に評価してください。	1	2 3 4 5
(11) 今回のセミナー全体を総合的に評価してください。	1	2 3 4 5

【裏面にも御記入願います。】

平成21年度 第9回 山形大学教養教育FD合宿セミナー
 「相互研鑽による教養教育の飛躍をめざして」
 ポ ス ト ア ン ケ ー ト

所属		氏名	
----	--	----	--

1 このセミナーには、積極的に参加しましたか。 で囲んでください。

とても消極的	やや消極的	なんとなく	やや積極的	とても積極的
--------	-------	-------	-------	--------

2 セミナーが終了した現在、参加して良かったと思っていますか。 で囲んでください。

とても悪かった	悪かった	普通	良かった	とても良かった
---------	------	----	------	---------

3 今回のセミナーにおける次の各項目について、個人的な収穫度(意欲,理解,応用など)を5段階で評価し、 で囲んでください。

	悪い	良い
(1) 授業改善全般	1	2 3 4 5
(2) 学生を中心とする教育・授業の発展	1	2 3 4 5
(3) グループ学習形式による学生主体型授業の体験	1	2 3 4 5
(4) 所属大学に対する主体的な参画意識	1	2 3 4 5
(5) プログラム あなたの、私の、授業実践	1	2 3 4 5
(6) プログラム コーチングとFDと	1	2 3 4 5
(7) プログラム プログラム 授業力の向上 - わかりやすい授業を実現するために -	1	2 3 4 5
(8) プログラム 研修のふりかえりとまとめ	1	2 3 4 5
(9) 参加者の相互合流	1	2 3 4 5

4 今回のセミナーを5段階で評価し、 で囲んでください。

(1) プログラムの内容の選択はいかがでしたか。	1	2 3 4 5
(2) 内容に対する時間配分はいかがでしたか。	1	2 3 4 5
(3) 内容の難易はどうでしたか。(1:簡単...5:難しい)	1	2 3 4 5
(4) グループ学習による体験型のFD合宿セミナーの教育効果はどうでしたか。	1	2 3 4 5
(5) このセミナーで示された学生主体型授業を、あなたの授業に取り入れようと思いますか。	1	2 3 4 5
(6) このセミナーの成果を、これからのあなたの教育活動に活かそうと思いますか。	1	2 3 4 5
(7) 今回のセミナー会場として蔵王山寮を利用したことについては、いかがでしたか。	1	2 3 4 5
(8) 今回のセミナーの開催時期はいかがでしたか。1または2に を付けた方は、下記の欄に御希望の時期を具体的に記入してください。 御希望の時期 [月 旬頃]	1	2 3 4 5
(9) 今回のセミナーの企画・運営を総合的に評価してください。	1	2 3 4 5
(10) 今回のDR陣を総合的に評価してください。	1	2 3 4 5
(11) 今回のセミナー全体を総合的に評価してください。	1	2 3 4 5

【裏面にも御記入願います。】

自由記述欄

5 このセミナーにおいて、良かったと思う点

6 このセミナーにおいて、良くなかったと思う点(改善すべき点)

7 このセミナーに参加して、これからの自分の授業並びに教育活動をどのように展開していこうと考えていますか。

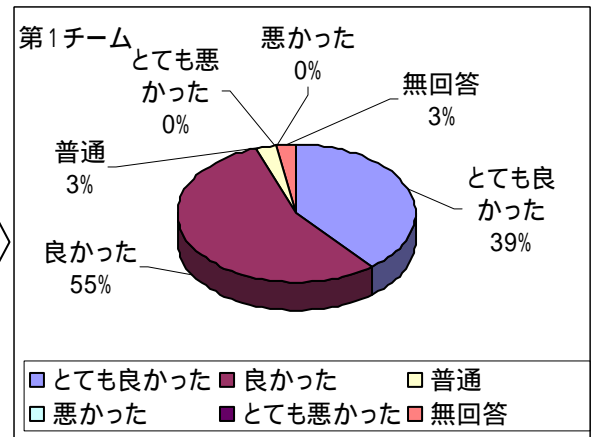
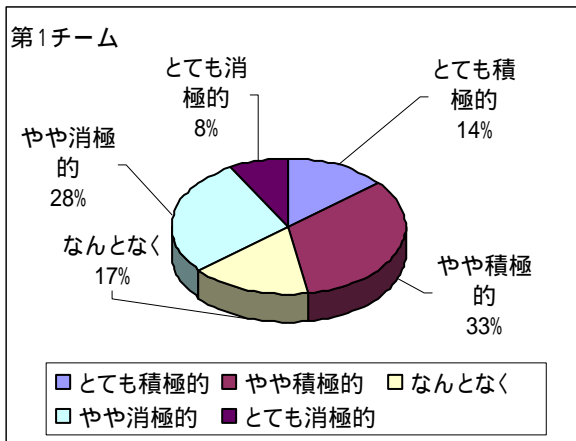
8 御自由に感想を書いてください。

FD合宿セミナー ポストアンケート集計結果

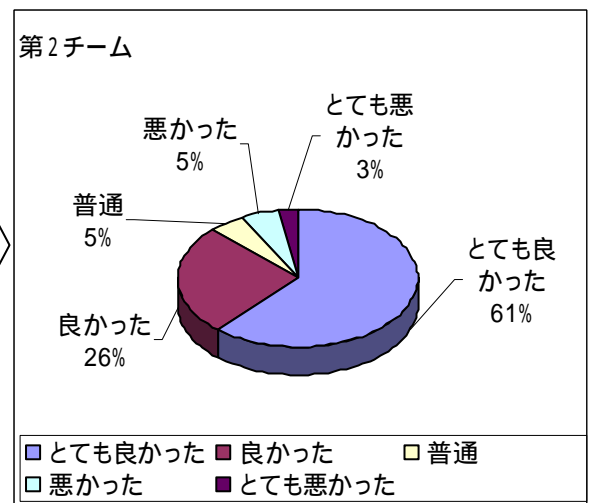
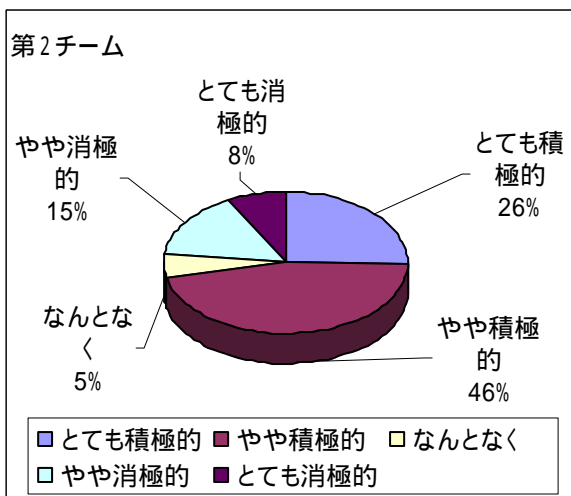
このセミナーには積極的に参加しましたか。
 <セミナー参加前>

このセミナーに参加して良かったと思いますか。
 <セミナー終了後>

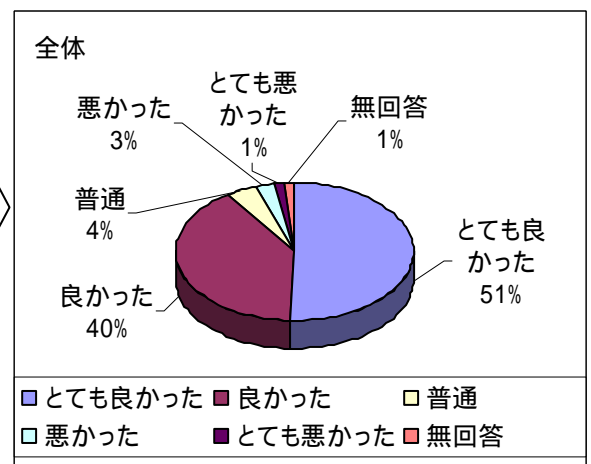
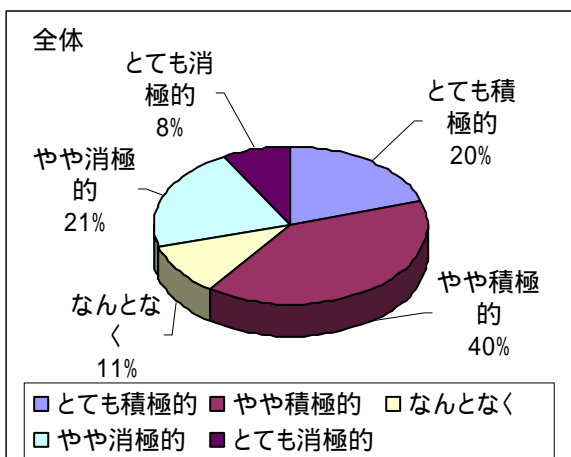
第1チーム



第2チーム



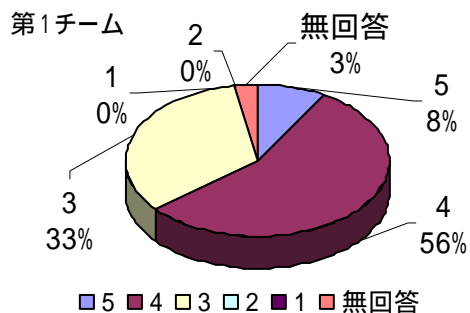
全 体



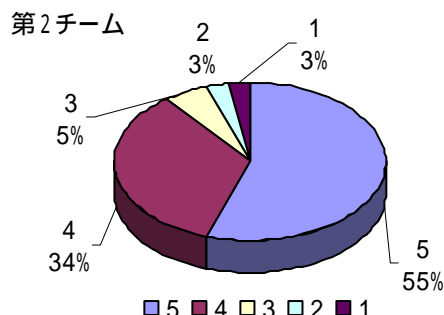
今回のセミナーでの個人的な収穫度(意欲, 理解, 応用など)を5段階で評価してください。

(5:良い … 1:悪い)

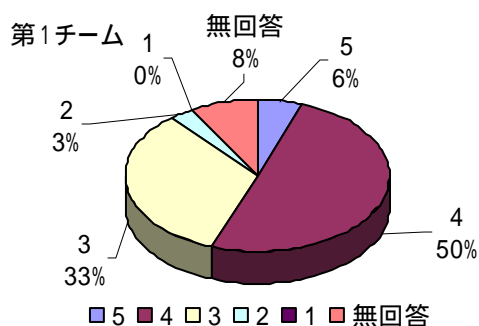
(1)教育全般



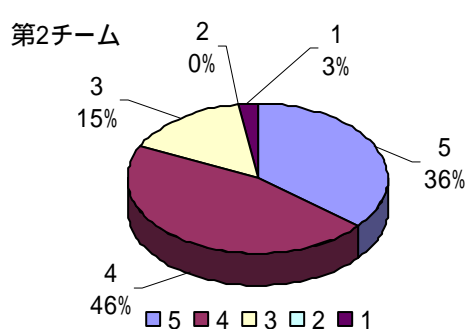
(1)授業改善全般



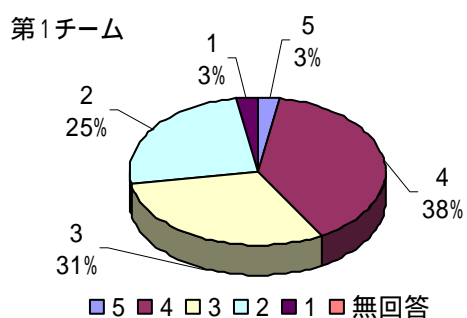
(2)山形大学に対する主体的な参画意識



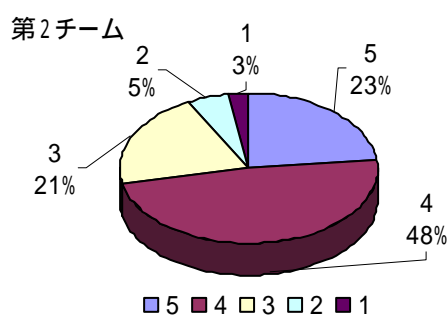
(2)学生を中心とする教育・授業の発展



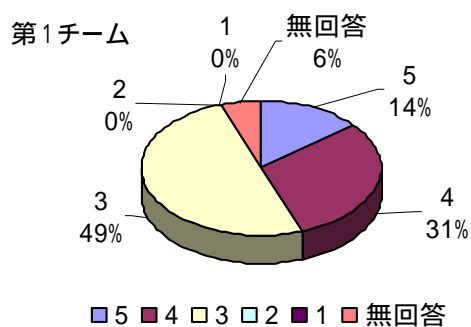
(3)グループ学習形式による学生主体型授業



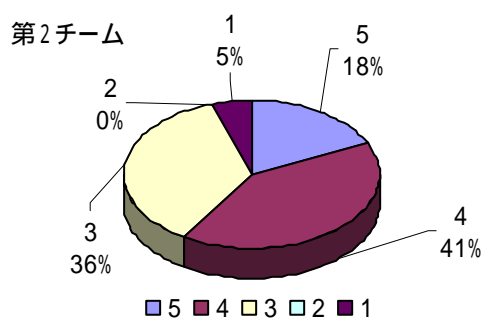
(3)グループ学習形式による学生主体型授業の体験



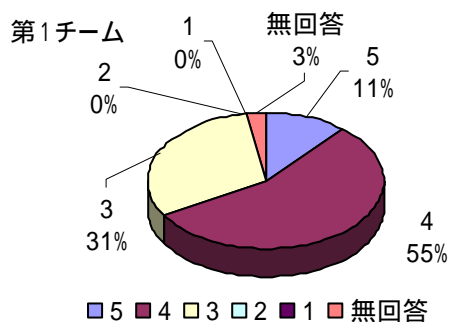
(4)シラバスの書き方



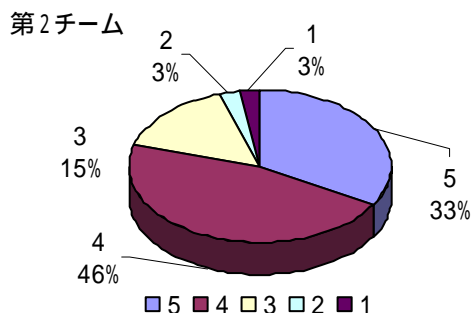
(4)所属大学に対する主体的な参画意識



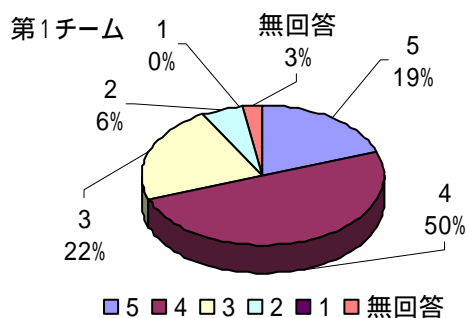
(5)プログラム 大学へのニーズと課題



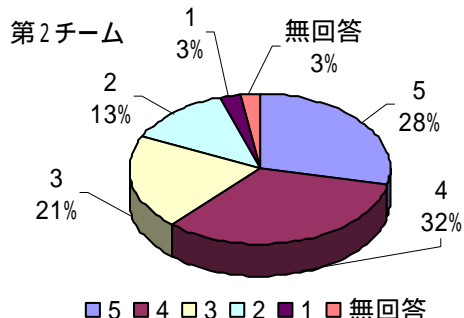
(5)プログラム あなたの、私の、授業実践



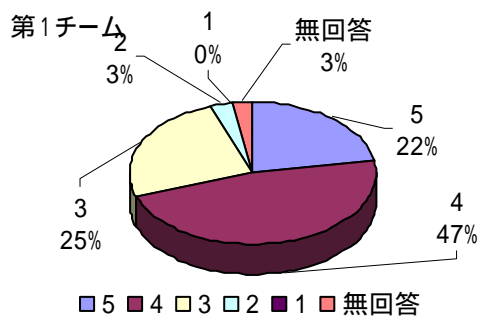
(6)プログラム 理想の大学をつくる



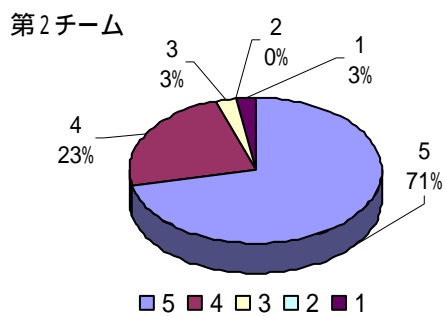
(6)プログラム コーチングとFDと



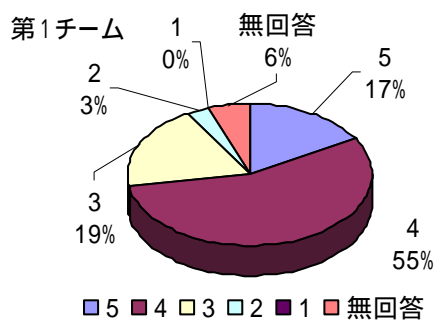
(7)プログラム 授業名と目標



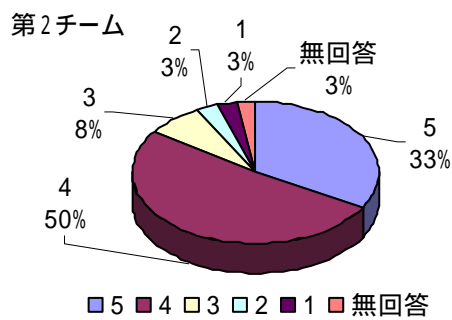
(7)プログラム 内容の作成授業力の向上
- わかりやすい授業を実現するために -



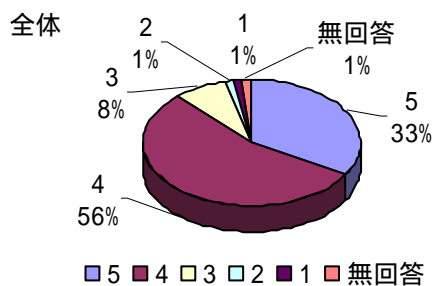
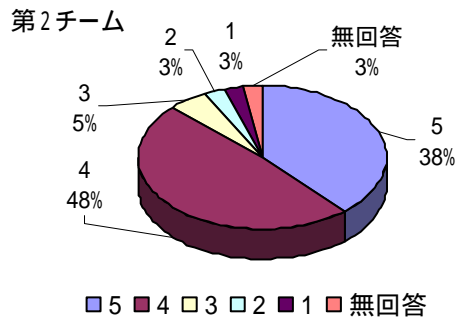
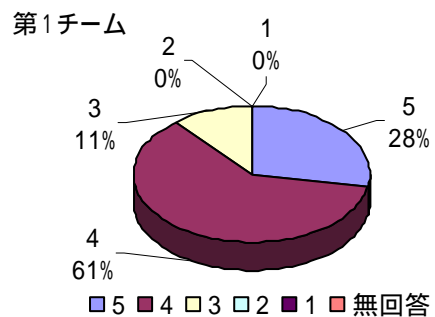
(8)プログラム シラバスの完成



(8)プログラム 研修のふりかえりとまとめ



(9)参加者の相互交流

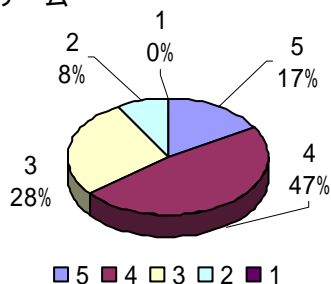


今回のセミナーを5段階で評価してください。

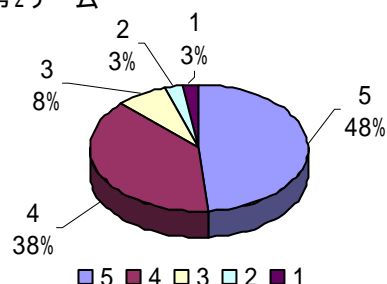
(5:良い … 1:悪い)

(1)プログラムの内容の選択はいかがでしたか。

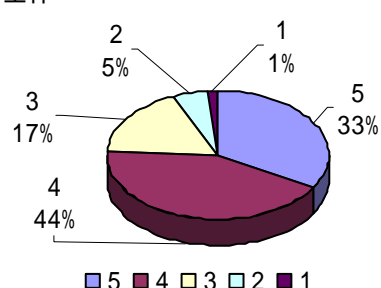
第1チーム



第2チーム

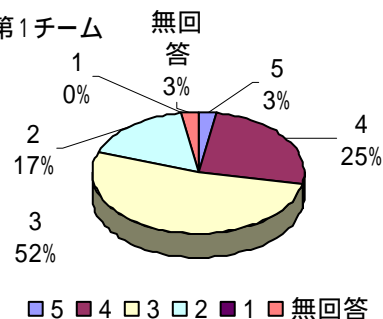


全体

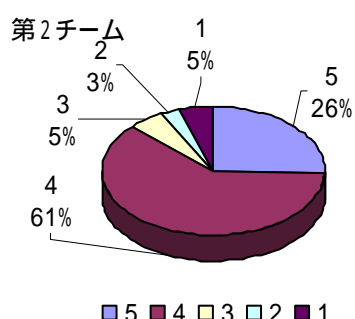


(2)内容に対する時間配分はいかがでしたか。

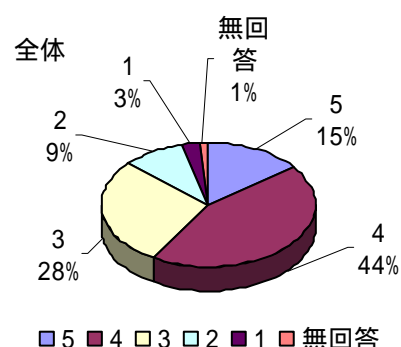
第1チーム



第2チーム

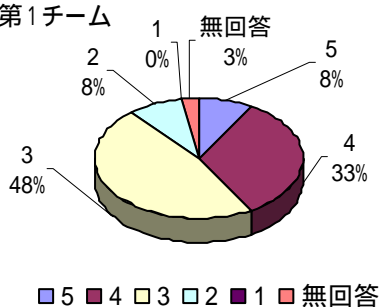


全体

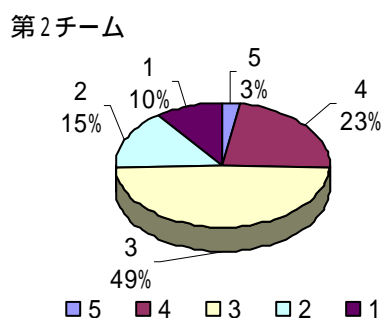


(3)内容の難易はどうでしたか。(1:簡単 … 5:難しい)

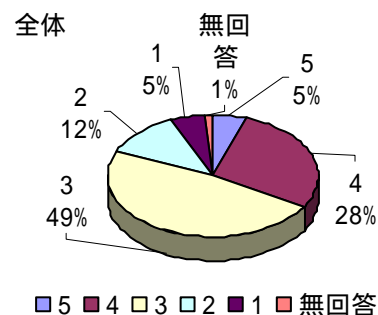
第1チーム



第2チーム

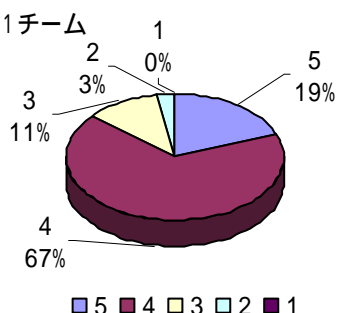


全体

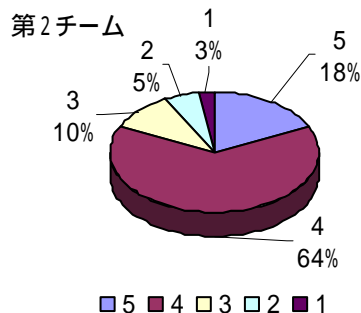


(4)グループ学習による体験型のFD合宿セミナーの教育効果はどうでしたか。

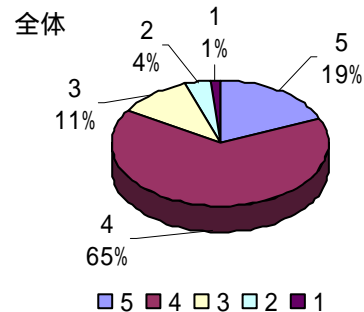
第1チーム



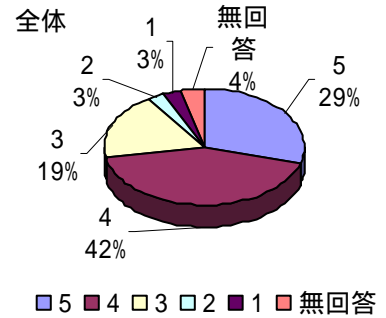
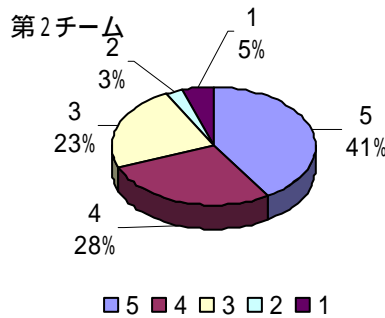
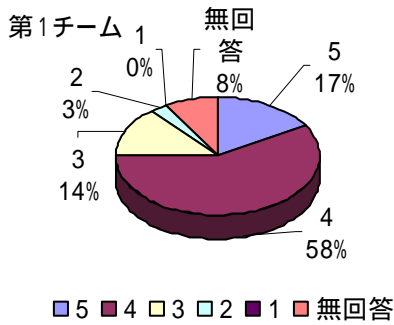
第2チーム



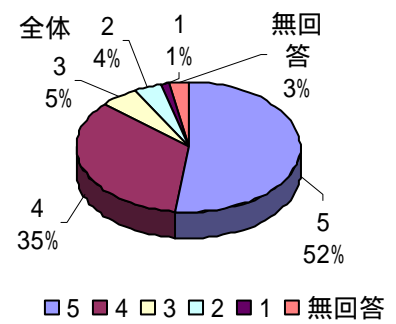
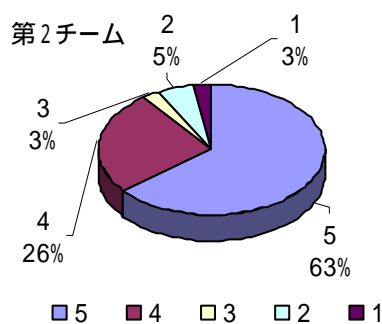
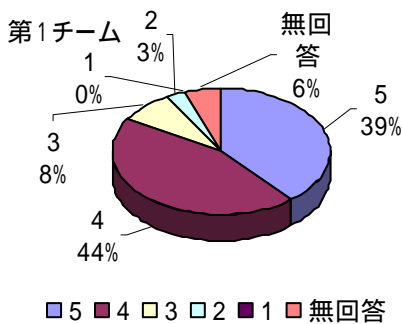
全体



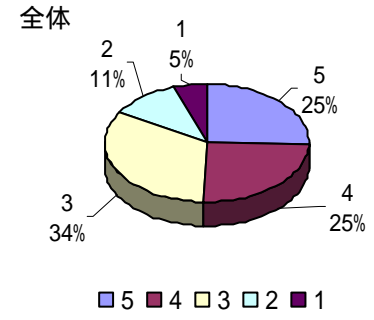
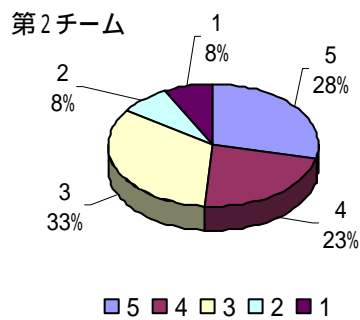
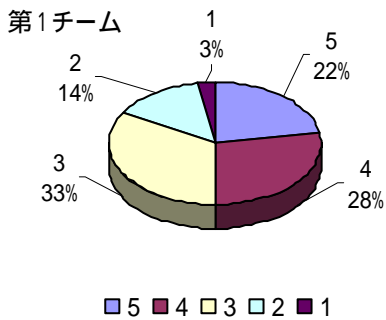
(5)このセミナーで示された学生主体型授業を、あなたの授業に取り入れようと思いますか。



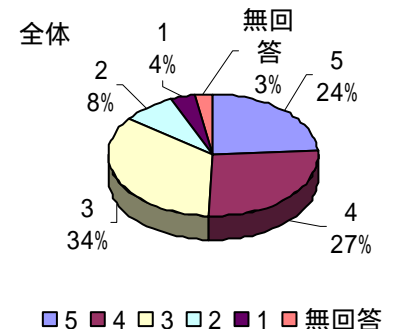
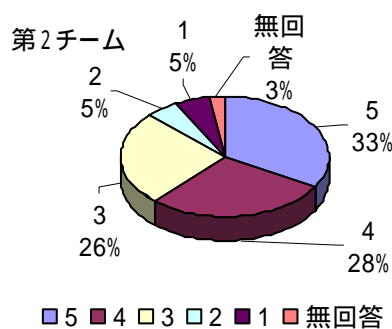
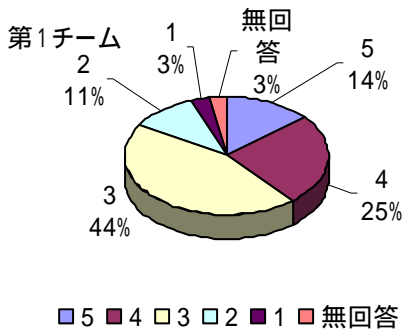
(6)このセミナーの成果を、これからのあなたの教育活動に活かそうと思いますか。



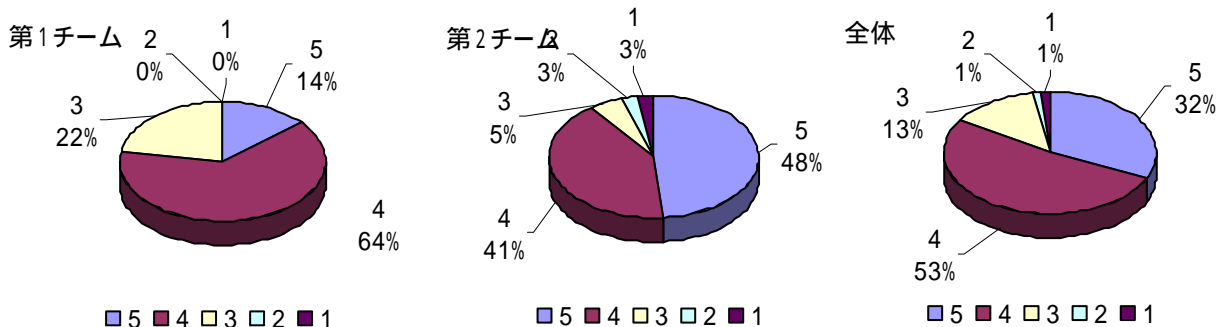
(7)今回のセミナー会場として蔵王山寮を利用したことについては、いかがでしたか。



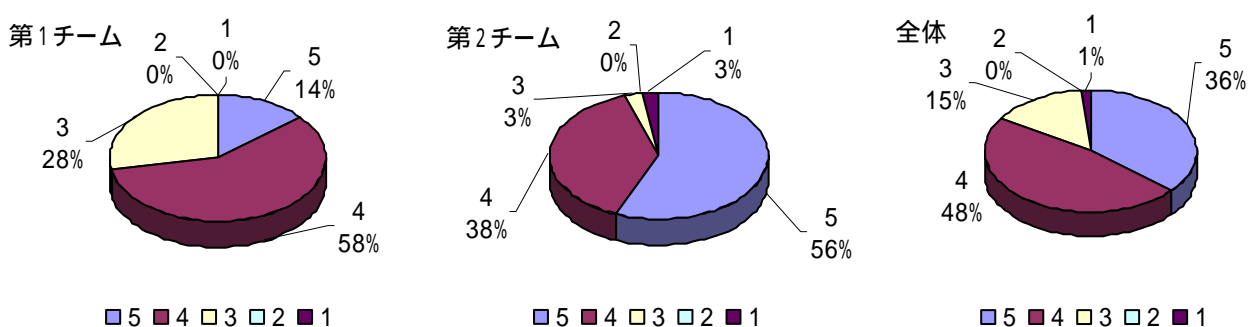
(8)今回のセミナーの開催時期はいかがでしたか。



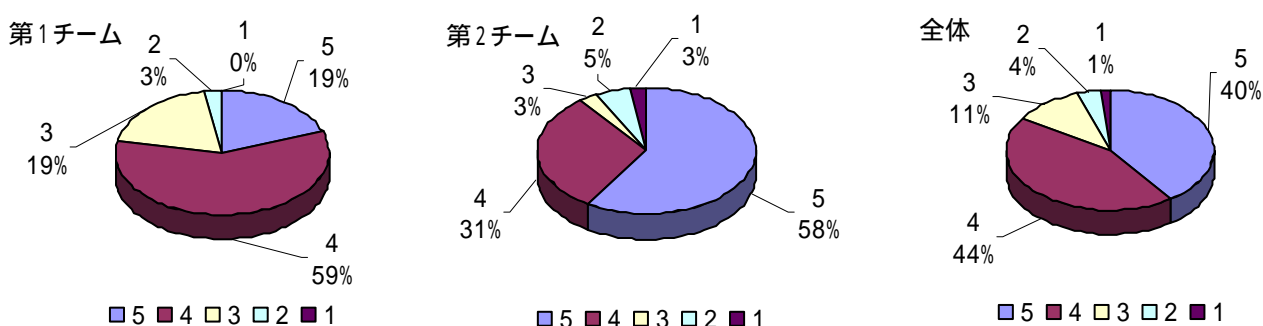
(9) 今回のセミナーの企画・運営を総合的に評価してください。



(10) 今回の3人の講師陣を総合的に評価してください。



(11) 今回のセミナー全体を総合的に評価してください。



○自由記述

(1)第1チーム

①このセミナーにおいて、良かったと思う点

- ・理想的な大学のあり方について考えさせられた。
- 他大学と交流ができたこと。特に他大学の状況を把握できたこと。他大学の魅力的な先生方のお話がきけたこと。
- ・普段の授業を離れて研修に専念できたこと。
- ・思ったよりゆとりのあるスケジュールであった。余裕を持って討論することができた。班内に限らず他大学、他分野の方々との交流がなされたのは有意義だった。
- ・演習中心の少人数でのセミナー。グループワーク中心の少人数でのセミナー。
- ・90分という時間設定、グループ作業、発表形式。
- ・FDに対する理解が深まった
- ・日本の大学が直面している教育の現状を知ることが出来たこと。
- ・他分野の専門家の話が聞けたこと。
- ・学生のような気持ちに戻れたこと。
- ・授業(教育)を評価する上で視野が広がったように思います。また、授業の組み立てにおいても、多くの示唆が得られました。
- ・教育、研究分野、教育における経験の違いを考慮し、バランスの良いチーム構成がされていた。
- ・他大学の教員が大学教育についてどのように考えているのか、各人が抱えている問題を共有できたことが良かった。
- ・ディスカッションを通じて学べた。
- ・短時間に集中して行う形式を徹底してやることで得られるものが大きいと実感した。
- ・交流できた点。
- ・他大学、他学部、他学科の先生達と意見交換が出来たこと。特に同様の悩みを抱えていることや、ユニークな取り組み等の情報交換が出来たこと。シラバス作成の具体的イメージがつかめたこと。
- ・主体的参加型授業の有益性、楽しさを改めて認識した。
- ・「相互研鑽」が具体化されたプログラムとして設計されていたと思います。制約された時間の中で集中して講義を進めていくことも前向きな検討と思考を支えていたと思います。
- ・限られた時間で集中的に問題に取り組むことで、曲がりなりにも具体的な成果が出せたという実感につながり、動機づけが高まる。
- ・作成したシラバスは勤務校の実情に合わせて修正し、実際の講義に反映させたい。
- ・メンバー個々人の意欲、メンバー間の連携の重要性が理解できた。
- ・徹底した相互研鑽、参加費の安さ、「あっと驚く授業NG集」の放映。
- ・他校の先生と意見交換ができたこと。
- ・各大学の現在の抱えている課題、問題点など認識でき、お互いに共有しあえたこと。

- ・複数大学の先生との交流。プログラム作成の体験。
- ・学生主体型授業について改めて考える良い機械となったこと(学生側に立って、物事を考える機会を意識的に設けるようにしたいと感じられたこと)。ひとつのグループでじっくり話し合えたこと。
- ・時間が少ない分、十分な議論の掘り下げができませんでしたが、それはそれで不快感が「もう少し考えてみよう」「他の方の考えを聞いてみよう」という意思につながったと思いますので、よかったですと思います。やはり、教育をよいものになりたいと熱心に考え、取り組んでいらっしゃる先生方のことを知れて、とても勉強になりました。
- ・グループワークの手法を身につけることができた。
- ・形態、特色の異なる他大学教員の方々との意見交換ができたことが有意義であった。
- ・グループ学習を体験できたこと。
- ・形態、特色の異なる他大学教員の方々との意見交換ができたことが有意義であった。
- ・様々な大学の先生方と意見交換できた点。問題意識を共有し合っていることを確認できた点。
- ・国公立、私立など様々な環境下におかれている大学の方々との意見交換できたこと。
- ・自分を学生という立場に置き換えてみることで、普段の授業を振り返ることができた。
- ・色々な大学の教員と交流でき、実情を知ることができた。
- ・「学生主体型授業」のひとつの方法を議論し、その良い点や課題(成功条件等)について具体的に考える材料が得られた。
- ・カリキュラム設計や授業計画の作成のひとつの有効な方法を知ることができた。
- ・他大学の参加者と交流ができ、それぞれの大学、学部について、わずかではあるが知ることができた。
- ・他大学の教員と、問題点を共有することができた。グループ参加型(ワークショップ)の良さを体験できた。ワークショップへの仕掛けを考えさせられた。
- ・日頃忘れがち、見落としがちな講義姿勢、シラバス作成上の意識、視野について再認識する機会を頂いた。
- ・大学間共通の問題点が確認できた(安心すると共に意見交換が多くあった)。

②このセミナーにおいて、良くなかったと思う点(改善すべき点)

- ・うるさくて寝れない。イスが硬い。
- ・宿泊施設が山の中で遠いこと。古いこと。
- ・プログラムⅢの課題割り当てのテーマがⅠ・Ⅱの流れを考慮していた場合、妥当性に欠ける。班毎主体的にテーマを決めるべきと思う。
- ・評価記入表得点について持ち点を18点とするのではなく、自由点とした方が良い。
- ・プログラムⅢのグループ課題は予め示すのではなく、プログラムⅢ開始時に示すほうが良い。

- ・グループの班名をつけるのは導入としては良いが、評価の際の表がA、B…なので少し混乱する。
- ・会場があまり良くないと思う(時間を気にしなくても良い部屋が用意できないので)。
- ・テーマごとの討論時間がまったく足りなかった。もう少し長いだけでも違うと思います。
- ・いい機会なので、山形の物産品をアピールすべき。夕食の芋煮や日本酒・ワインは良かったが、おいしいはずのお米がいま一つでした。夕食時や交流会で、例えば農学部先生がお米についてなどピーアールしては。
- ・山形大出身者が少ない。学生(無料)や事務の方の参加があった方がより良いと思います。
- ・各プログラムの時間配分を調節してほしかったです。特にプログラムⅢで時間が足りないと感じました。
- ・スケジュールが若干ハード
- ・スケジュールがタイトすぎると感じた。
- ・少々時間不足(慣れればうまくいくとは思いますが)ディスカッションや発表に対しての専門の立場からのコメントがあればと思いました。
- ・学生の実態から出発することや、大学での現状の問題点の把握が弱い。現状分析がない。形が先行し内容の吟味が少ない。
- ・宿泊施設かな?
- ・このままのプログラム構成で良いと思います。
- ・FD分野で先行している貴学のDRの皆さんとの接点をもっと持ちたいと感じました。これは私の姿勢の問題でもあるので自戒でもありますが、何かきっかけとなる情報をいただけたらと思います。
- ・最初日のプログラムのテーマが一般的なもので「教員の意識改革」「学生の主体性の喚起」といった常識的な問題の抽出にとどまる可能性が高い。参加者の確認・自覚を促す意味はあるのかも知れないが、こういった点はこれ迄のセミナーで既に明示されている筈なので、回を追うごとの発展的な内容に期待したい。
- ・1つのプログラムは、せめて120分はとるべきでは?(授業時間90分にこだわる必然性はないような気がします)
- ・各プログラム90分構成でしたが、もう少し深く掘り下げプログラムⅠ(1)(2)として行ってもよいのでは? 今後は1泊2日(基礎)2泊3日(より専門的FD委員(デベロッパー)の合宿に分けてもよいと思う(主催者は大変だと思うが…))。
- ・4つのプログラムから構成されていたが、疲労度はないが物足りなさも否定できない。ただし、じっくりと振り返るにはちょうど良いのかも知れない…と感じた。
- ・色々な事情がおありだと思いますが、その中でも良くやっていたらと思います。
- ・学生に当てはめるとき必ずしもモチベーションが高いものばかりではないのでうまく進めるためのコツを知りたかった。
- ・貴学のFDに関する知識面の講義があった方がありがたいです。
- ・テーマ設定におけるフリーディスカッションの時間を十分にとっていただきたいかった。その他として全体討論会が欲しかった。

- ・テーマ設定におけるフリーディスカッションの時間を十分にとっていただきたいかった。その他として全体討論会が欲しかった。
- ・発表時間に余裕がなかった。
- ・スケジュールが少々タイトだった。周辺を散策するぐらいの時間は欲しかった(早起きして行きましたが)。
- ・各プログラムの時間をもう少し長くしては?
- ・各大学がそれぞれ“今持っているもの”から出発するしかない。これはこれでその考えや経験に学ぶところが大切だが、より高いもの、総合的なもの、客観的なものを「学習」するプログラムが一部にあっても良いと思う。
- ・また、各プログラムでの作業時間40分余りは短い。各教員がそれぞれの考え方や経験にもとづいて意見を出し合うにはあと20分程度はあった方がよい。
- ・各グループの発表へ時間がプログラムⅡ、Ⅲでは十分とは思わない。発表が細かく具体的になるので、他グループのものは理解するだけでたいへん。結局、自分のグループについて成果と課題を確認するところまでで良しとしなければならぬようだ。
- ・2日目の内容は濃すぎた。懇親会の自己紹介が少し長かった。懇親会後の設定もあっても良かった。

③このセミナーに参加して、これからの自分の授業並びに教育活動をどのように展開していこうと考えていますか。

- ・教養を担当する際の参考にする。
- ・学生主体型授業の実践に向けて、自身の意識改革がなされたと思われるが、それを実践するためには、教室等の環境整備が必要となる。可能な所から展開していきたい。
- ・“学生主体”とは何か、という追求の上に立ち、“学生主体”の授業づくりを徹底する。
- ・他の教員と日常的に授業づくりについて検討する。
- ・教員の役割について新鮮な発見があった。
- ・シラバスの作成について具体的な指標が重要であると感じた。
- ・総花的なく、ポイントを絞ったテーマ設定が必要と感じた。
- ・学生主体の講義について検討はしたいと思います。
- ・医学部では、今日のような連続した講義を行わないため、イメージすること自体が難しかったです。ただし、グループ討議、時間配分の方法は応用できると感じました。
- ・一方的な知識の伝達ではなく、学生が主体的に学べるしかけづくりに、今回の学びを活かしたいと思います。
- ・学生主体の講義を導入したい。
- ・今回話したような内容を同僚と議論していきたい。
- ・学生中心の授業形態にしたい。
- ・学生主体という教育活動を部分的に実践してきたが、今後更に拡大していくつもりでいる。
- ・現状の多様な活動の整理、位置づけを行いたかったが個々に展開するしかない。
- ・既に自分が授業で取り入れている方法が、今回セミナーに参加して妥当なものだと確信を得たので、今回新たに学んだことを含めて、今後更に展開していきたい。

- ・問題解決を行うさいに有効であると考えられます。このセミナーの収穫は使わせていただきます。
- ・授業設計の観点や、Ideaを沢山学ぶことができたので、後期の自身の授業で早速織り込んで実践しようと思う。
- ・岡大のFDフォーラムを一度宿泊型にもどすことを検討します。いきなり外部公開は困難ですが、将来的には…
- ・学生とのかかわりを見直していきたいと考えています。具体的には学生に自身をつけるかかわり方を考えたい。
- ・よりインタラクティブな授業と共に学生主体型の授業を個人的に、そして全額的にFDセミナー等まで紹介して広めていきたい。
- ・9月8日に予定している所属大学のFD研修会にこのセミナーの体験を生かしたい。
- ・本学の教育改革に様々な手法を活かしていきたいと思う。同様のセミナーやワークショップを本学でも実践していきたいと考える。
- ・どうやったら学生の学びを引き出せるか、大学の中で自分の居場所を見つけることを支援できるか。学生同士のつながり、学生と大学のつながり、学生と教員のつながり、そうした人と人とのつながりを促し、学びへのモチベーションを深めていけるような色々な仕掛けを行って活きたいと考えます。そのための様々なアイデアをいただいたと思います。
- ・グループワークを自らの授業で役立てていきたい。
- ・人的ネットワークを活かして行きたい。
- ・学内、学科内FD活動にて情報発信と現状分析、修正に役立てたい。
- ・色々な気づきはあったが、具体的にでたように活用できるかについては、正直に言って良くわからない。
- ・1年生のビギナーズセミナーに応用できる面がある。
- ・「学生主体」ということは、言葉としては使っていても、実践となると中々難しかったが、沢山のヒントが得られたと思う。
- ・学生参加型授業についてある程度理解できたので、自らの教育活動に生かしていきたい。
- ・プログラムⅠとⅣのテーマについて、チームで考え、アイデアを出しあい、具体的なプランニングを立てることの重要性がわかった。授業でのこのような方法でカリキュラム設計・授業計画作成をやってみたい。
- ・演習・実習の授業の中で、学生中心のワークショップを取り入れていきたいと思います。その際には事前のミーティング(各グループリーダーに対して)等が重要かと感じました。いわゆる仕掛け、です。
- ・シラバス作成、学生主体型講義の設計、90分の効率的配分に有効に活用していきたい。
- ・新学部、新学科を立ち上げた直後ですから、低学年(1年次から)から学生参加型授業、フィールドワークを取り入れたいと考えます。

④ご自由に感想を書いてください。

- ・スタッフの方々ご苦労様です。
- ・山大で開催することは何か不都合があるのでしょうか。

- ・セミナー準備ご苦労様でした。より多くの先生方が参加できるように少なくとも山大はノルマ参加とすべきでは？
- ・他大学、他分野の人たちと、現代の学生、大学が抱えていること等について討論できたことは有意義でした。
- ・参考にしたい点がたくさんあったので良かったと思う。
- ・まだ知らない教員が大勢いると思いますので、より一層広めていただけると良いと思います。
- ・もう一度教養の単位を取りたくなりました。
- ・山形大内だけで、各学部から30～40人が集まる交流会があってもいいと思いました。
- ・時間調整ができれば、1日開催(日帰り)も可能かと思います。
- ・本セミナーの発展を期待します。ありがとうございました。
- ・具体的な授業準備、進行に関する内容を議論したかった。例えば学生との接し方、話し方から板書、授業時間の分配などについて。
- ・コーディネーター側も大変であったと思います。感謝感謝です。
- ・これ迄のセミナーからの継続事項、成果の簡単なまとめが欲しい。今回のテーマが出てきた過程を知りたい。評価基準(示された)が限定されすぎている。現実から出発して大学のあり方を検討すべき。学生に与える内容の検討だけでは教育は変わらない。学を知る視点が必要。
- ・他大学への参加を呼びかけ、運営いただきありがとうございました。
- ・研修運営ありがとうございました。
- ・DRの皆様のご準備や運営に感謝申し上げます。私は大学のFD担当の一人として、本セミナーそれ自体やその中で学んだことを積極的に活用sh対と思いますし、今後のCommunicationによる相互発展ができればと思います。ありがとうございました。
- ・こうした施設を、しかもこの地に持っていることをうらやましく思います。どうも有り難うございました。追記:修了証を発行することを考えられてはどうでしょう。
- ・山形大学の先生方、本当にありがとうございました。このような広がりがもっと大きくなるのが、学生のさまざまな力を引き上げ、伸ばすのだらうと思います。色々感じましたが、教員の意識改革が本当にありがとうございました。
- ・非常に有意義な2日間でした。もう少し時間をとってディスカッションできればと思いました。合宿形式でのセミナーはお互いをより深く交流できました。ぜひわが大学でも時間を作り実施していきます。
- ・グループの方々からは、多くの知識が得られた。生成期評価基準、シラバス作成など、専門的な学びをもう少し深めることができると、もっとより良いと感じられた。参加させていただきまして、ありがとうございました。たくさんのお土産…となりました。
- ・ワークショップ形式で自らの考えの浅さ、未熟さを痛感しました。意欲的に取り組んでいらっしゃる先生方から多くのことを学ばせて頂きましてありがとうございました。
- ・総じてとても役に立ちました。ありがとうございました。各グループに貴学の若手だけでなく、年配の先生も入って欲し

いです。

- ・山形大学の参加者が少ないのが意外であった。すでに多くの教員が参加したためか、或いは全学的にはこのような取り組みが十分認知されていないのか気になった。(当学ではこのような取り組みはしていないし、近年中に実施できるかどうか不明ですが、一般教員の受け止め方が気になります。)
- ・すばらしい環境での合宿に参加できて良かった。運営面で努力された先生方、関係者にお礼申し上げます。
- ・テーマの設定によると思うが、議論がやや理想論に傾きがちだったように思う。やはり公立大学は(厳しくなったとはいえ)まだ恵まれた環境にあるのでは?と思った。
- ・小規模な私大ではすでに実施済みのころも多かった。私大では当たり前のことも含まれている。
- ・NG集(ビデオ)も程度の差はあれ、実際にあることばかりで笑って済ますことはできませんでした(苦勞させられていることもあります)。
- ・山形大学の皆様有難うございました。
- ・夜の懇親会で見せていただいたビデオは面白かったが、その分他の参加者との交流の時間が減った。特に自分の班以外の参加者と交流し、その話を伺う機会が少ないので、ビデオ上映は10分程度にとどめた方が良かったのでは?
- ・2日間好天に恵まれていたのが良かった。早朝のトレッキングができた。
- ・『仕掛け』(方法論?)に関して、多くの情報が欲しいと考えます。そこに工夫があると思いますが、そのヒントでも具体的にないと良いと思います。
- ・2日間非常に実用的・実効的な研修活動に参加させて頂き感謝しています。有難うございました。

(2) 第2チーム

①このセミナーにおいて、良かったと思う点

- ・大島先生の講義。
 - ・明るい雰囲気で行われたこと。
 - ・多くの人たちの努力の内容を知ることができた点。今後活かしたい。
 - ・自らの授業を振り返る良いきっかけとなった。知っていると思っていたことも、正確ではないと分かった。(新たな発見)
 - ・グループ活動を中心にして、相互に交流しながら研修することができた。全国の先生達と接する貴重な機会となっている。
 - ・90分を単位としたプログラム構成が、授業のリズムと合っていて、実際の時間の使い方を考えながら受講できた。
 - ・他大学、他分野の教員との交流。
 - ・以前参加のセミナーよりもストレスのない自由な学習活動。
 - ・講師の先生の話方(内容は勿論です)。
- 具体的な例とそれによる気づきを与えてくれた点。皆さん努力されているのだと分かった点。

・自分の授業のいいかげんさを思い知らされました。このことに気付いたことが自分の中で非常に重要であると思います。すぐに改善すべきですが、できるだけ努力したいと思います。

- ・全体を通して、リラックスした感じが良かった。
- ・授業改善に役立つ知識・情報が得られた。
- ・グループ学習が効果的に使われていてよかった。
- ・ノルマや目標が、ゆるく設定されていたので、あまり緊張せずに取り組めた。
- ・多くの大学から参加しており、他大学の実情を知ることができた。
- ・他学部、他大学の教員との交流。
- ・参加者同士の交流がスムーズになされ、その点では得るものが多かった。また、私自身の体験を、教え始めたばかりの方にお話しするチャンスがあり、少しでもお役に立てたかもしれないと思うとその点ではうれしい。

また、山形大学の教養教育と専門教育の話し合いの場はなかった。

- ・グループ討論など、班で少人数(5-6人)で話し合ったり、まとめや作業をするなど、終日参加型のセミナーであったのが、他のセミナーと違って、ずっと集中していることができ、よかった。講師のお二人はすばしかなかった。まさにプレゼン、パフォーマンスの先生です。授業のNG集Videoは出演者の演技が抜群でみなさん俳優、監督になれる。
- ・問題点の発見(認識)だけでなく、具体的に改善する方法が示されて、とても有効だと感じました。
- ・こういう形(内容、開催場所)のFDセミナーもありうるということがわかった点。
- ・他大学の先生との交流、情報交換。
- ・プログラムがたいへん良く計画されていると思いました。教育活動の交流については他大学の先生方と持つ機会は非常に少なく、とても貴重な体験をさせていただきました。また、現代の教育活動が何を目指し、どのような方向へ向かっているのか、学内にいるだけではわからなかったことや、自分一人で考えていて、自身がなかったことが明確になりました。
- ・大島講師の時間配分は見事!見習わなくてはならないと思いました。
- ・大島先生の講演「いやらしくないプレゼンテーション能力」が大変良かった。客観的に見る物事(プレゼン)への評価が良かった。
- ・授業について改めて考える機会が持てた。授業にも色々なものがあり、専門の異なる方が多くおられたので、他人の考え方が理解できた。
- ・2日目の大島先生のプログラムⅢが特に良かった。話の内容が具体的で、実際的でとてもためになったと思う。
- ・得難い情報交換、交流の機会となった。具体的な講義技術を知ることができた。
- ・自分の専門をこえて、普段交流することのない専門分野の方々交流することができ、良かった。
- ・また、普段特別な工夫をしているという意識をしていないことについて「工夫している」というとらえ方ができるのだ、と

いう確認ができた。＝自信につながった。

- ・限られた時間の中で効率よくプログラムが組まれていた点。
- ・一泊というのもちょうど良いかと。
- ・講師陣も充実していた点。
- ・他の大学の専門がまったく違う先生方と情報交換がかなりできた点。
- ・普段考えてはいても、改善できることがより明確になったという気がします。特に講義の工夫すべき点が明確になったと思います。
- ・場所（蔵王山寮）はとても良いです。（このようなセミナーに適している）
- ・講師の先生の顔ぶれ。
- ・他大学の先生達と交流ができたこと。
- ・コーチングということをはじめて詳しく理解できました。またイメージ交換ゲームでの“ズレ”を認識（体感）できたことは、貴重でした。
- ・多くの方々の経験や考えを聞かせて頂き、とても参考になりました。
- ・久々にじっくりと授業について考える時間が持てた気がします。
- ・色々な大学の方と交流ができた。
- ・飽きのこない構成であった。
- ・学生のためにできる具体的なことに気付いた。
- ・コーチングの話と授業力向上。
- ・前回とはテーマが同じでも、工夫された点が見られること。
- ・FDの意義を改めて重要と感じた。他大学の現状も直接聞くことができ、得られたことが多かった。
- ・プログラムⅢは大変有益で、私に大いに取り入れたいと思っている。

②このセミナーにおいて、良くなかったと思う点（改善すべき点）

- ・コーチングが良くわからなかった。
- ・アドバンストというほどの新鮮味には欠けたように思う。
- ・もっと自由に話す時間があってもよいと思う。
- ・比較的満足している。
- ・実際の活動を取り入れるのは良いことであるが、コーチングの方法など具体的な方法を示さなければならぬのでは戸惑いがあった。
- ・一日目の懇親会終了後（就寝時間）のおしゃべり（大声）
- ・講師のキャリア自慢には閉口した。
- ・教員は学生用カイコ棚で、事務員が教員用和室を使用しているはいけません。
- ・大学や分野によっては異なる各論部分との整合性がとれない。生徒主体の意義が安っぽく感じられる。本来の大学の意義から離れているようにも感じられる。
- ・テーブルの配置のせい、懇親会の際あまり移動ができず、結局自分のテーブルの方々とはしか話せなかったのが残念です。
- ・寝る環境。これはかなり悪かったです。2階に寝ましたが、

AM1:00 まで照明がついていて、さらに他色々。是非改善して下さい。

- ・コーチングについてもう少し説明があってもよかったと思う。
- ・バスの移動中などに予習できることがあれば伝えておくと良いと思いました。
- ・宿泊の2段目に登る「はしご」がすべり易く、荷物を持って昇り降りするのが大変であった。グループで助け合って荷物を渡す等の指示が必要だと思う。
- ・Ⅱのコーチングについて、単なる雑談になってしまった。評価が難しい（どこが良くて、どこが良くなかったのか）。
- ・セミナーで話し合う交流の範囲が班の中とか、かなり制限されているように感じた。もっと全体からの意見も聞いてみたかった。質問したいことがあっても質問するチャンスを見つけないのが難しかった。
- ・時期が悪い。
- ・討論の時間が短い。プログラム数を減らしても、十分討論できる時間が欲しい。席移動がもう少しあった方が良かったと思う。
- ・1日目の懇親会はもう少し早く始めてよいのでは。全員揃うまで乾杯を待つのも不要（外国ではない）。揃ったところで、改めて乾杯でいいのでは。食事や懇談の場は、もう少しinformalにしてほしい。（海外の学会のようなムードで）
- ・コーチングに関しては時間の短さもあり、意図、方法などよく理解しきれなかった。また、理解できたとしても、1回のゲームだけで実際に活用できるかどうか…。
- ・最後のイメージ交換ゲームは、もう少しお互いを理解してからのの方が良かったかも。
- ・申込の際“詳細は後日”とあったので詳しい案内・要綱がメールないし郵便で届くものと思っていたが、いくら待っても何も来なかった。連絡の仕方に改善を加えて欲しいと思う。
- ・スケジュール上の制約によるかと思いますが、コーチングについてFDへどのように取り入れるのが良いか理解が追いつきませんでした。もう少し時間をかけていただけたらありがたかったです。私にとっては新しい考えでもありますので、今後も勉強できる機会があればと思います。
- ・授業方法のノウハウに視点が偏りがちで、自身の担当する授業・分野の面白さ、楽しさを学生に伝える本質的な教材理解の視点を喚起する工夫が必要だと思いました。
- ・佐藤先生のお話は、少し基本的すぎたように思う。もう少し「人を驚かす」面があった方がよい。自信がありすぎるように見えるのはどうか…
- ・1日目の懇親会は1日目のチーム内の人とは話ができたが、他のチームの人とは殆ど話しをするチャンスがなかった。テーブルの配置をもう少し工夫していただきたいと思う。
- ・プログラムの理念に一貫性が欲しい。個別には大変参考になるが、せっかくの合宿なので2日間を通して一つのコースとしてコーディネートされては。あと2日目の班分けはあまり意味がなかった気がします。
- ・やや中途半端で終了したようなプログラムがあった点。
- ・客員の先生のみならず、山大の先生が講師を勤める位にならないといけないのではないか？と思いました。何か

理由があるのでしょうか？

- ・このセミナーということではありませんが、FDで常に課題となることは、関心を持って下さらない教員、教官をどう刺激するのかということと、学事や研究等で限られた時間をどう工夫して、教育の改善に振りあてるかということが考えさせられるところです。
 - ・二日目のグループワークが少し短いかも知れません。
 - ・様々な分野の方たちとの交流作業なので、どちらかという一般的な授業改善の方向に傾きがちなので、同一分野の方達との交流や協力作業もあればよいのかなと感じた。
 - ・せっかくの蔵王なのでアイスブレイキング等で外を利用できないかなと思いました。
 - ・1日目のコーチングのプログラムはもっと長く話を聞きたかった。
 - ・作業の見本例がイメージできないものがある。Ex. コーチングでほめずに元気にさせる声かけの具体例は？
 - ・時間が少しきつい。
- 研修室の椅子が少し尻が痛くなって困りました。若い人も言うておられました。
- ・コーチングについて、もう少し勉強したい。

③このセミナーに参加して、これからの自分の授業並びに教育活動をどのように展開していこうと考えていますか。

- ・納得したものをいくつか取り入れようと思います。
- ・学生主体型授業がまとめて示されたように思いません。
- ・得た「TIPS」については今後活用させていただきます。
- ・授業のしかたやレジュメの作り方を工夫したい。
- ・授業改善の「5つの鉄則」と参考にして、自分の鉄則を立て、試行錯誤してみたいと思っている。
- ・十分に活かしていきたい。
- ・具体的な技術ポイントは、授業以外にも役立つので“伝える”技術として反芻したい。フィードバック(リフレクションシート)の活用は必要だと感じた。早速取り入れる。
- ・まず、授業内容の整理から始めたいと思います。型を決定し、ルールを決めようと計画しています。
- ・全て参考にします。その上で更に自分なりに工夫したい。
- ・学生にとってためになる授業をしていこうと思います。
- ・いくつか取り入れられそうなことを試してみたいと思いました。例えば、板書の利用の発問して「ほめる」ことによりリズム作り、などです。
- ・多々参考になる点があった。授業に工夫をこらしていくつもりである。
- ・様々な工夫を聞き、良いと思ったものは講義に反映させたい。
- ・これまでの自分の行き方が正しかったと思ったので方針は変わらない。いくつか、アイデアはいただいた。
- ・担当科目による違い、大人数や少人数等の違いもあるので、一般論で語られても使えないことが多々ある。また、すでに実践していることもあった。
- ・セミナーで他の先生達の実施例をたくさん聞いたので取り入れていきたい。学生にとって後でよかったと思われるよう

な授業、教育(educate 引き出す)活動を続けたい。

- ・プログラムⅢで教えていただいた要素を読み返して「構造化」「倒置ミステリ」「つなぎ言葉の強調」など、意識して授業を行ってみようと思います。
- ・多く挙げられてきたことの大半は、すでに自分の授業で取り上げているので、“すぐ、これを”という事項はないが、より前向きにやっていきたいとは思っています。
- ・講師の先生、参加者の皆様から多くのヒントをいただき、自身が気付いていないことにも気付かせていただきました。具体的なことから一つ一つ取り入れ実践できたらと思っています。
- ・自分がこれまでに実践していた内容が多かったので、再確認することができました。良い点は自信を持って学内に広める努力を指定校と思います。
- ・1. 学生を主体として「客観的な」授業構築をしていきたい。
2. 教員評価の参考にもしたい
- ・自分で進めていたものもあるが「なるほど」と思ったことは2学期からの授業に取り入れたいと私の大学の他の教員にも提供したい。
- ・4月に今の大学に移ってきて、やっと前期の授業が終わったばかりである。これからこのセミナーで教えていただいたことを参考に、授業について、考えていこうと思う。
- ・思慮を柔軟に、色々の考えを聞き入れる努力が大切と痛感したので、この点に気をつけたい。
- ・時間配分、話の構造化について、特に意識して授業を行いたいと思います。
- ・個人の授業改善をまず優先して取り組む必要があると考えているが、教務委員会として全学的な流れを構築していければと思います。
- ・一昨年あたりから本学教員がこのセミナーに参加させてもらっていますが、本学においてこのようなセミナーが開催できるように頑張ります。
- ・学生からのフィードバックの充実化や、プレゼンテーションで心掛けるべきところの意識を強めるところかと考えております。
- ・授業を実践する際、より留意すべき点が具体的に示されました。これらを活かして行きたいと思います。
- ・所属大学のFD活動の改善に役立てたい。
- ・グループ学習形式の充実、改善をすすめたいです。また、自分がどの様に見えるのか、注意していきたいです。
- ・自らの授業で学生に伝えたいことをよりシンプルに、コンパクトに絞り込んでいくと同時に、それらのモニタリングを徹底したいと思います。
- ・授業の組み立て、授業の実践(話し方や資料etc)をもっと考え工夫していこうと思います。
- ・大学院FD委員長として、今回学ばせて頂いたノウハウを大学に持ち帰り、紹介したい。さらに、合宿も企画したい。その時にはご助言をよろしくお願い申し上げます。
- ・気付いたことを授業の中で実践したい。
- ・自分の授業の再点検と改善。
- ・大島先生の、まわりからのプレッシャーがあっても「ポリシーの継続」をするということ、私を守り続けたいと思う。

- ・自学の教育FD活動で周知させると共に、自分の教育面でも大いに活用したい。
- ・演出、演技、パフォーマンスを常に考えるようにしたい。

④ご自由に感想を書いてください。

- ・山寮で行い「自由行動禁止」等々のプレッシャーは、参加者へのハードルをあげる一方で、何らかの効果を上げていると考えられるでしょうか？
- ・就寝時間をすぎて大声で飲酒放談する方の声がひびいていましたが、あれが「交流」ですか？
- ・他大学の教員と話す機会があると、目が開かれる。今までの自分が「井の中の蛙」だったことに気付く。山形大学のもっと多くに教員に参加してもらいたい。
- ・受講機会を与えていただき有難うございました。
- ・毎回(数回参加)進化するセミナー内容なので今後も楽しみ。(大学を離れても参加したいくらい…?)
- ・授業方法改善の必要性がある人だけ(例えばアンケート評価が毎年2ポイント代の人)に出席依頼すべし。
- ・“方法”の改善より“内容”の改善(研究・学問)を優先すべし。内容があれば若者はついて来る。
- ・私の学生は国家プロジェクトの試料を扱っており、4、5日は私の指導が受けられずとまどっていました。学生第一の観点から「○学部から何人お願いします」という依頼は絶対に止めてください。今回の学生の損害はどうなるのでしょうか。
- ・設問6と共通しますが、各論としては、技術的に取得すべきだとは思いますが、大学は本来小～中～高校での授業の延長ではないと考えている自分にとっては違和感のある点も多かったです。
- ・温泉のあるところでできないのでしょうか？
- ・とにかく、寝ることをもっと大事に。夕食は非常にうまい。ごはん最高。いも煮も。
- ・大変勉強になりました。
- ・『コーチング』の実習がもう少し充実できるかなあと思いました。感想をいってもらった場面がありましたが、その前に各班が話し合うか、チェックリストのようなものを完成させるとか、もうひと工夫欲しいと思いました。面白かったのでそこが惜しいと思いました。全体的にフィードバックのかけ方にもうひと工夫欲しいと思う場面がありました。
- ・来る前はかなりNegativeな考え方だったが、今はFDに対する考え方が少し変わった気がする。
- ・工学部の教員はこの時期学会の予稿の作成、期末テストの実施と採点、人によっては学会(人によっては学生の指導)と様々な書類提出を求められていたり、各種の入試(推薦、大学院etc)やオープンキャンパスと極めて過密スケジュールとなっている。そこへ2日も取られたのでは体調を崩して当たり前。帰宅後の仕事にも響いてしまった。工学部にはJABEEがあるため比較的普段からどのようにしたらよいか考えている。このような程度のFDならば必要性を感じなかった。それよりも学生から教養教育のあり方について不満を聞く機会がある。「授業なんか出なくていいんだ。」「レポートを出せば単位をやる。」といった発言をする教師を何

とかして欲しい。レポートを出しても落とされたそうで契約不履行。また、シラバスに従わない。自分の授業軽視。そして学生の勉学態度を壊し他の教科にも影響を与える。一般に教養教育科目は「なまぬる」すぎる。

- ・こういう合宿は久しぶりで、最初は不安でした。しかし本当によかった。これだけの内容のセミナーを企画、準備、遂行するのは事務員のみなさん、山形大学の教職員のみなさん、大変だったと思います。実りの多い2日間でした。ありがとうございました。
- ・とても有意義なセミナーでした。実際に使えるテクニックを教えていただき、ありがとうございます。
- ・本学のFDパンフレットを事前にお送りする際、部数を尋ねたら“第2チームの参加者は48人なので50部”と言われた。実際にここに来てみたら、第1チームからすでに配布したのか、残部がわずかしかなかった。それならば“両チーム合わせて100部”と言ってくれればいくらでもお送りできたのに、残念に思った。お世話様でした！
- ・カッチンくん登場の場を与えて下さり有難うございました。
- ・寝台で「イビキ」「騒音」など、多少考慮した方が良くもしれない。朝の風呂も入れるように工夫すると良い(ボイラーの燃焼など)
- ・他大学にまで門戸を開放されている山形大学の懐の深さに感謝します。
- ・大学に戻ってから、他の教員へもセミナー参加を呼びかけようと思う。今後のセミナーのテーマとして「FDの効果の評価方法」について是非取上げていただきたいと思う。
- ・誰によらず全参加者が「共に自分の話したい結論」を頭において話しているので、なかなか率直で有意義な議論にならないのが残念。
- ・勤務校の教員に、参加をすすめたいと思います
- ・お世話になりました。運営面においても参考になることが多々ありました。ありがとうございました。
- ・大変良い機会を与えて下さり、真に有難うございました。小生個人としての参考になりました。この成果を、小生の周りへ伝えていくことが小生にとっての課題と考えております。
- ・タオル自参と銘記していただき良かったです。(案内等に)
- ・NGビデオ上映が良くできていたと思う。
- ・朝、シャワーだけでも使えたら最高です。
- ・「カッチン隊」は強く印象に残りました。女性参加者の方々ありがとうございました。
- ・お風呂場の持ちものをもっと具体的に書いて頂けると女性には有難いと思います(ドライヤーなしとか、タオルなしetc)
- ・とても楽しかったです。同僚にも勧めようと思います。
- ・人数配分、時間構成など、あらゆる面において洗練されており、バランスよく企画されていたと思います。ありがとうございました。
- ・本企画に感謝します。
- ・他の大学への講義やFD合宿等への援助は可能か？
- ・今年もとても良かったです。また参加したい！
- ・他大学(山形大学)でのFD研修に参加できてよかったが、自分のようなロートル(64歳)に加えて、もっと若い人達にも。